

# 第一 蚕糸絹文化振興事業

## I 蚕糸・絹に関する功労者表彰等

### 1 蚕糸功労者の表彰

学術経験者等で構成する蚕糸褒賞等選考委員会での審査に基づいて決定した蚕糸功労者に対する第69回蚕糸功労者表彰式を、平成25年11月5日 総裁常陸宮殿下ご臨席のもとに東京會館において挙行了した。

蚕糸功労者（功績表彰規程に基づく表彰）

恩 賜 賞  
 蚕 糸 功 績 賞  
 蚕 糸 功 績 賞  
 蚕 糸 功 績 賞  
 蚕 糸 功 績 賞  
 蚕 糸 功 労 賞  
 蚕 糸 有 功 賞

茂 木 雅 雄 殿  
 中 谷 比 佐 子 殿  
 井 上 元 殿  
 佐 藤 康 徳 殿  
 佐々木 亮 一 殿  
 亀 崎 壽 冶 殿 ほか29名  
 宮 尾 澄 生 殿 ほか29名

特別賞

蚕 を 学 ぶ 奨 励 賞

宮城県 南三陸町立戸倉小学校 殿

### 2 蚕糸絹業に関する競技会等褒賞

蚕糸絹業に関する競技会等褒賞規程に基づいて次のとおり褒賞した。

褒賞年月日	行 事 の 名 称	主 催 者 団 体 名
25年4月25日	2013 駒ヶ根シルクミュージアム まゆクラフト作品展	駒ヶ根シルクミュージアム
25年6月17日	第52回全国和裁技能コンクール	(社) 全国和裁団体連合会
25年7月25日	第58回全国和裁技術コンクール	(一社) 日本和裁士会
25年10月12日	第51回全国ファッションデザインコンテスト	(財) ドレスメーカー服飾教育振興会

褒賞年月日	行 事 の 名 称	主 催 者 団 体 名
25年11月23日	平成25年度笠間稻荷神社 献穀献繭祭品評会	笠間稻荷神社
26年 3月15日	第65回特別展 「まゆクラフトと絹の作品展」	日本絹の里
26年 3月26日	2014西陣織大博覧会－西陣大会	西陣織工業組合

## Ⅱ 蚕糸文庫等情報強化対策事業

### 1 情報提供体制の整備

- (1) インターネットを活用し、蚕糸絹関係のホームページの充実を図った。
- (2) 蚕糸絹に関する刊行物関係では、トピック的な情報を盛り込んだシルクだより（年3回）、蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業（以下「提携事業」という。）の状況や継続的な統計データが入ったシルクレポート（年6回）、学術書としての大日本蚕糸会研究報告等を発刊した。
- (3) 蚕糸絹情報提供の強化策の一環として、(独)農業生物資源研究所との共催の形で蚕糸絹文化の特別講演会「シルク・サミット 2013 in 久米島 シルクが元気・地域が元気」を開催した。

### 2 情報活動に対する援助

日本蚕糸学会、日本シルク学会及び中央蚕糸協会の蚕糸絹に係る研究報告や情報誌の発行、研究会の開催等に対して支援を行った。

(V－2 蚕糸絹科学文化継承発展事業を参照)

- ・ 日本蚕糸学会      英文誌「J. Insect Biotechnol.Sericol.」の発行  
                            和文誌「蚕糸・昆虫バイオテック」の発行
- ・ 日本シルク学会      「日本シルク学会誌」及び「第60回日本シルク学会研究発表要旨集」の発行
- ・ 中央蚕糸協会      「内外シルク研究会」講演会開催

また、中央蚕糸協会との共催による新年賀詞交歓会（平成26年1月7日蚕糸会館）の開催、宮内庁紅葉山御養蚕所の訪問、同所で生産された繭の蚕糸科学研究所での製糸等の活動を行った。

### 3 蚕糸・絹に関する書籍等の刊行頒布及び蚕糸文庫の整備

#### (1) 定期刊行物の頒布等

「大日本蚕糸会研究報告」 第61号（平成25年12月刊行配布）

「シルクだより」 第46号～48号（平成25年5月、9月、平成26年1月刊行配布）

「シルクレポート」 第30号～35号（平成25年4月から隔月で年6回刊行配布）

#### (2) 蚕糸文庫の管理運営

平成25年度においては下記のとおり、図書については544冊（購入7冊、寄贈537冊）、定期刊行物については83種類（購入20種類、寄贈63種類）を受け入れた。

（図書の受払状況）

分類	事項	図 書					定 期 刊 行 物			備 考	
		既蔵書数	年 度 内 受 入			払出	計	購 入	寄 贈		計
			購 入	寄 贈	計						
分類 (9分類)	和	18,616	本館 3 本部 3 分館 1 } 7	本館 5 本部 531 分館 — } 537	本館 9 本部 534 分館 1 } 544	—	19,160	本館 6 本部 3 分館 7 } 16	本館 32 本部 27 分館 3 } 62	本館 38 本部 30 分館 10 } 78	
	洋	1,558	本館 — 本部 — 分館 — } —	本館 — 本部 — 分館 — } —	本館 — 本部 — 分館 — } —	—	1,558	本館 — 本部 — 分館 4 } 4	本館 — 本部 — 分館 1 } 1	本館 — 本部 — 分館 5 } 5	
計		20,174	7	537	544		20,718	20	63	83	

(注) 1. 図書計は、本館（蚕糸科学研究所）9,803冊、本部（蚕糸会館）8,062冊、分館（蚕業技術研究所）2,853冊の合計冊数（ただし、重複を含む。）で25年度末蔵書数である。

2. 定期刊行物は、種類の合計である。

(3) ビデオテープ等のDVD化

蚕糸文庫が保有するビデオテープ等の映像資料については、最新映像再生機器への対応のため、そのデータのDVD化を推進した。

(4) 本会所有の特許・実用新案・商標権一覧

- ・ 出願中の特許等 特になし
- ・ 権利継続中の特許等

名 称	種別	登録番号	登 録 日	期間満了日
あけぼの〔現行5, 10, 16, 25類、法区分1（旧17類）＝被服〕	商標	2405621	平成4年4月30日	平成34年4月30日
無撚シルク糸及びその製造法、及び該糸を用いてなる織地及び編地 共願人有限会社ハック権利放棄による本権の持分を本会が承継	特許	3418938	平成15年4月18日 平成24年3月14日	平成35年4月18日
プラチナボーイ〔蚕業技術研究所〕 第23類（糸） 第24類（織物、メリヤス生地） 第25類（被服） 第31類（蚕種、種繭）	商標	23類 4953659 24類 4953660	平成18年5月19日	平成28年5月19日
		25類 4974805 31類 4974806	平成18年8月4日	平成28年8月4日
複合生糸の製造方法	特許	3878596	平成18年11月10日	平成38年11月10日
太繊度低張力繰糸装置	特許	4055169	平成19年12月21日	平成39年12月21日
複合生糸及びその製造方法、及びそれを用いた製編・製織方法	特許	4068019	平成20年1月18日	平成45年1月18日
ビーティング装置	特許	4078618	平成20年2月15日	平成45年2月15日
繭糸の繰糸方法	特許	4131439	平成20年6月6日	平成45年6月6日
ふい絹 23類（糸） 24類（織物、メリヤス生地） 25類（被服）	商標	5161854～5161856	平成20年8月29日	平成45年8月29日
玉小石〔蚕業技術研究所〕 20類（枕、クッション） 22類（絹製品） 23類（糸） 24類（織物、布製身の回品、布団） 25類（被服） 31類（蚕種、種繭）	商標	5173664～5173669	平成20年10月17日	平成30年10月17日

名 称	種別	登録番号	登 録 日	期間満了日
抱合シルク糸及びその製造方法及び抱合シルク糸を編成してなるシルクニット地	特許	4569869	平成22年8月20日	平成36年8月20日
繰糸装置	特許	5413758	平成25年11月22日	平成45年11月22日

※〔蚕業技術研究所〕以外は、〔蚕糸科学研究所〕。

名 称	種別	登録番号	登 録 日	期間満了日
日本の絹〔現行24, 25類〕	商標	4710802	平成4年4月30日	平成34年4月30日
Sロゴ〔現行24, 25類〕	商標	5435405	平成15年4月18日 平成24年3月14日	平成35年4月18日
シルクアットハート〔現行35類〕 (旧19, 15, 17, 16類)	商標	商 願 2012-090669 旧 1986557 旧 1995368 旧 2032531 旧 2512403	昭和62年9月21日 昭和62年10月27日 昭和63年3月30日 平成3年10月30日	平成29年9月21日 平成29年10月27日 平成20年3月30日 平成25年3月18日

※〔社団法人日本絹業協会より継続〕

### Ⅲ J A S 登録認定事業

本会は、平成18年3月10日「農林物資の規格化及び品質表示の適正化に関する法律の一部を改正する法律」（平成17年法律第67号）に基づき登録認定機関に登録され、平成22年3月30日付けで更新されたが、今般、生糸がJAS規格から外れることとなったことから、更新申請を行わなかったため、平成26年3月9日にその効力を失った。

## IV 蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業

提携事業は、養蚕、製糸、生糸流通等の蚕糸業と、製織、絹織物の卸・小売等の絹業との連携を推進し、国産繭・生糸の特徴や希少性を生かした純国産絹製品づくりを通じて、蚕糸業の再生と持続的発展及び蚕糸絹文化の継承を図ることを目的として平成19年度から実施してきており、25年度をもって当初計画としての終期を迎えたが、26年度以降については、蚕糸・絹業提携支援緊急対策基金の残高及び本会の資金をもって継続的に実施することとしている。なお、平成25年度末には、56の蚕糸・絹業提携グループ（以下「提携グループ」という。）が、養蚕農家が生産した国産繭全量を購入するシステムを構築し、活動を展開している。

### 1 蚕糸・絹業提携システム形成支援事業

#### (1) 提携システム構築コーディネート事業

##### 1) 業務運営基本方針等

- ① 蚕糸・絹業提携システム全国推進協議会を開催（平成26年2月27日）し、提携事業の6年間の実施状況の概要、26年度以降の実施方針、純国産絹マークの推進状況等に関する事業の実施状況等について報告等を行った。

##### 2) 川上・川下における情報収集・提供

- ① 養蚕農家、製糸業者、絹業者等の情報収集・提供（パンフレット等の配布、説明等）
- ② 提携グループの取組状況等（繭生産の状況、グループの活動状況、養蚕農家台帳等）を把握するための調査の実施（6～2月）
- ③ 「シルクレポート」の発行・配布（5月、7月、9月、11月、1月、3月）（隔月発行）
- ④ ホームページの充実等（シルクレポートの内容等最新データの情報掲載等）
- ⑤ 全国蚕糸行政連絡協議会（以下「蚕糸行政連」という。）及び蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会（以下「提携全国協議会」という。）の開催等を通して情報の収集・提供等の実施（随時）

##### 3) 提携システム構築に向けた相談・指導

- ① 提携グループの構成員等に新たに参加したい等の個別相談への対応（随時）
- ② シルク工房・作家等の零細な絹需要者から、提携システムへの参加方法等の相談への対応（随時）

#### 4) 蚕糸・絹業情報交換会の開催

##### ① 蚕糸行政連及び蚕糸絹文化活性化推進協議会（以下「活性協」という。）の担当者会議等を通じた情報交換

- ・ 25年5月蚕糸行政連に出席し、提携事業の24年度の実施状況及び25年度の実施方針並びに大日本蚕糸会の蚕糸絹文化活性化推進事業等について説明し、事業の円滑な実施に向けての情報交換
- ・ 26年2月蚕糸行政連に出席し、提携事業の25年度の実施状況及び26年度以降の事業実施方針等を説明

##### ② 提携全国協議会の開催等を通じた情報交換

- ・ 提携全国協議会の幹事・監事会及びワーキンググループの開催を通じた情報交換（6～10月の概ね毎月実施）
- ・ 純国産絹展（宝絹展）の開催等を通じた提携グループ参加企業の会議等を通じた情報交換

##### ③ 養蚕主産県及び蚕糸・絹業の業界関係者等の会議等を通じた情報交換

- ・ 養蚕主産県において開催される蚕糸・絹業等関係者の情報連絡会議等に出席し、提携事業の実施状況等の説明と情報交換（随時）
- ・ 蚕種業者等との打合会に出席し、蚕種の生産・流通状況及び蚕種の生産資材の過不足状況等について情報交換（随時）
- ・ 提携システム確立グループ責任企業との意見等情報交換（随時実施）
- ・ 純国産絹マークの使用許諾者との意見等情報交換（随時実施）
- ・ シルク工房等関係者との情報交換（随時実施）

#### (2) 提携システム構築バックアップ事業

##### 1) 繭生産に関する研修及び指導

地方研修会を本会との合同事業として、優良繭生産・特殊な蚕品種の生産・飼育環境清浄剤等の内容で開催した。（研修実施県：岩手、宮城、山形、福島、茨城、栃木、群馬、埼玉、長野等）

##### 2) 養蚕・製糸用資材の安定供給

###### ① 養蚕用資材安定供給

養蚕資材のうち、自動収繭毛羽取り機の供給が極めて緊急となっていることに対処するため、中古養蚕用資材（自動収繭毛羽

取機) 活用の取組として「中古養蚕資材リサイクル供給支援事業」を実施した。

(事業内容等の概要)

緊急的に自動収繭毛羽取機を確保するため、養蚕資材供給組合(群馬県渋川市、代表者:高村育也)に委託し、休・廃止養蚕農家から遊休化している自動収繭毛羽取機を収集し、整備・修理を行って養蚕農家に供給する体制を整備した。

② 蚕種業者が使用する「のり付催青台紙」の供給体制の整備

「のり付催青台紙」の供給者(東陽化成品株)から、催青台紙製造中止の連絡があり、蚕種製造業者等への状況説明、新たな催青容器の開発・改良、東陽化成品株との今後の取組み等の協議(製造機器の譲渡等)等を行った。

③ 新しい蚕室清浄剤(「飼育環境清浄剤」)の普及・啓発(25.6~10月)

3) 純国産絹製品の試作及び評価

提携全国協議会が行う事業(純国産絹製品のPR・販売促進事業(以下「提携全国協議会事業」という。))として、35グループが、純国産絹製品、試作品(反物(無地染、小紋、手描き)、先染(紬、帯)、洋装等)等の展示会等を実施

4) 純国産絹製品等の普及・啓発

① 純国産絹製品の普及展示のための常設展示コーナーの推進

ア 川上(群馬県日本絹の里)、川中(京都市西陣織会館)及び川下(東京都ジャパンシルクセンター)において、引き続き常設展示コーナーを設け、純国産絹製品のPRを推進。

イ 上記常設展示コーナーの担当者連絡会議を開催(26.3.4)し、25年度の実施状況及び26年度の実施方針等について情報交換を実施。

② 純国産絹製品の普及・啓発

25年度からは、大日本蚕糸会及び提携全国協議会が純国産絹製品等を実施

ア 大日本蚕糸会が実施

5月 純国産絹製品展 京都市(産業会館)



1 1月 純国産絹製品展（実りのフェスティバル：東京都明治公園）

イ 提携全国協議会が実施

8月 純国産絹製品展（純国産宝絹展）札幌市（札幌三越）

1月 純国産絹製品展（純国産宝絹展）横浜市（横浜高島屋）

1月 純国産絹製品展（純国産宝絹展）東京都新宿区（新宿伊勢丹）

③ きもの専門誌に純国産絹製品等のPR記事の掲載

掲載雑誌（25年冬号又は26年1月号）

- ・（株）ハースト婦人画報社：（「美しいキモノ」冬号、「婦人画報」1月号、「25ansリシェス」冬号）
- ・（株）世界文化社：（「家庭画報」1月号）
- ・（株）プレジデント社（「七緒」冬号）

5) 純国産絹マークの審査、承認、配付、管理等の実施

① 純国産絹マーク審査委員会の開催 25年度（6回）

- ・純国産絹マークの許諾状況（26年3月末現在純国産絹マーク許諾者186業者、491表示対象製品）

② 純国産絹マークの使用状況実態調査の実施等（随時）

6) その他の取組

① 提携全国協議会の活動

ア 25年度定時総会（25年4月）

イ 主な活動

(ア) 純国産絹製品のPR・販売促進の強化戦略検討会の開催

- ・戦略検討会（幹事・監事会及びワーキンググループ等）の開催（4～9月に6回開催）

(イ) 全国規模の純国産絹製品展示会（純国産宝絹展）の開催

- ・純国産絹宝絹展（札幌市 札幌三越 25年8/20～25）
- ・純国産絹宝絹展（東京都新宿区 新宿伊勢丹 26年1/2～7）
- ・純国産絹宝絹展（横浜市 横浜高島屋 26年1/8～12）

(ウ) 提携グループ毎に行う純国産絹製品の展示会等の開催

- ・展示即売会を実施したグループ 30グループ

(エ) 提携グループブランドブックの作成

- ・各提携グループが製作・販売する純国産絹製品リストや製品の紹介等をしたブランドブックの作成

(オ) 提携全国協議会ホームページの内容充実

② 養蚕農家等のデータベース化の取組み

データベースシステムの構築（養蚕農家管理システムの開発、データバックアップ等サポート体制の確立等及びそれらの管理）

(3) 純国産絹製品づくり条件整備事業

1) 稚蚕の安定供給

稚蚕飼育所において1令から3令まで蚕飼育するのに必要な経費を助成

（対象県：8県、13飼育所、対象農家数：324戸、対象箱数：3,245.98箱）

① 岩手県南農業協同組合

- ・1飼育所（岩手南農協花泉稚蚕共同飼育所、22戸、飼育計182.490箱）

② 宮城県養蚕産地育成協議会

- ・3飼育所（筆甫、耕野、入谷）、23戸、飼育計1145.0箱

③ 福島県優良繭生産推進協議会

- ・1飼育所（持藤田（田村市））、50戸、飼育計765.6箱）

④ 栃木県北央地区養蚕産地育成協議会

- ・1飼育所（JA那須南稚蚕人工飼料飼育所、13戸、飼育計233.75箱）

⑤ 栃木県小山地区養蚕産地育成協議会

- ・ 1 飼育所（J A 小山稚蚕共同飼育所、14戸、飼育計 166.85箱）

⑥ 群馬県養蚕産地育成協議会

- ・ 3 飼育所（前橋市農協大胡、甘楽富岡農協，倉沢）  
（180戸、飼育計 1,672.5箱）

⑦ 千葉県養蚕産地育成協議会

- ・ 1 飼育所（東金市稚蚕共同飼育所、6戸、飼育計 36.75箱）

⑧ 愛媛 西予市蚕糸業振興協議会

- ・ 1 飼育所（J A 東宇和新城稚蚕飼育所、8戸、飼育計48.76箱）

⑨ 熊本県蚕糸振興協力会

- ・ 1 飼育所（下益城東部稚蚕人工飼育センター（下益城郡豊野町）、8戸飼育計24.75箱）

2) 機械・機材整備事業

① ㈱宮坂製糸所（長野県岡谷市東銀座）

- ・ 特殊生糸繰糸機（小ロット対応型小枠浸透装置ユニット）の設置

2 蚕糸・絹業提携システム確立対策事業

平成26年3月末日現在で、56の蚕糸・絹業提携グループが活動を展開中であり、25年度は48提携グループに助成を行った。

## V 蚕糸絹文化活性化推進事業

我が国蚕糸絹文化の維持・継承と、今後の蚕糸・絹産業の活性化を図る上で、その基盤となる蚕糸・絹の生産及び利用技術の導入・推進を図るとともに、国産繭・生糸を活かした絹製品の開発・生産・販売への取組を推進するため、蚕糸絹業関係者の行う提携グループの推進活動に対する助成等、次の事業を積極的に推進した。

### 1 活性協推進事業

#### (1) 中央推進事業

##### ア 先導養蚕農家現地検討会（10 t 会）

我が国の先導的養蚕農家の夫妻が集まり、養蚕経営事情についての情報交流や主催者農家での現地検討会を行った。

（平成26年2月17～18日）

検討会：福島県福島市内

現地研修会：福島県伊達郡・佐藤治氏宅及び福島県真綿協会

##### イ 現地指導調査

農水省、活性協及び大日本蚕糸会の3者により、以下の調査を行った。

7月8日 山梨県南巨摩郡養蚕農家：芦澤定弘

8月1日～2日 山形県鶴岡市養蚕農家：加藤稔、最上郡養蚕農家：下山菊夫

9月6日 宮城県伊具郡養蚕農家：谷津義和、佐藤靖

9月10日 福島県二本松市養蚕農家：松本治介、安斎孝行

9月30日 栃木県那須塩原市養蚕農家：井上正利、佐々木一郎、那須郡養蚕農家：藤田久雄

10月8日～9日 鹿児島県大島郡養蚕農家：南裕和、南修郎、西政吉

※調査は、農水省、活性化事業協議会委員及び大日本蚕糸会で分担実施

ウ 桑園診断を行う専門家の派遣

派遣時期 平成25年9月14日～15日  
派遣先 山形県鶴岡市養蚕農家・加藤稔  
派遣の内容 ①桑葉が黄変して、落下することの原因と対策  
②桑樹生育状況の診断・調査  
派遣講師 蚕業技術研究所研究アドバイザー：市橋隆壽

エ 上蔭室改善指導を行う専門家の派遣

派遣先 山形県最上郡養蚕農家・下山菊夫  
派遣時期 平成25年9月17日～18日  
派遣の内容 上蔭室改善に係る技術指導  
派遣講師 蚕業技術研究所上席研究員：代田丈志

オ 養蚕施設の清浄指導を行う専門家の派遣

派遣先 栃木県那須塩原市養蚕農家・井上正利  
派遣時期 平成26年3月17～18日  
派遣の内容 養蚕関連施設における膿病ウイルス防除指導  
派遣講師 蚕業技術研究所上席研究員：代田丈志、研究員：野澤瑞佳

(2) 活性協推進事業

先導的養蚕農家等の指導拠点である県協議会等に対し、現地指導や研修会経費等の助成を行った。

- ① 岩手県養蚕活性化推進協議会 ○協議会開催（1回） ○現地指導・研修会（3回、延べ61人）
- ② 宮城県先進養蚕経営確立推進協議会 ○協議会開催（2回） ○現地指導（4回、延べ16人）

- |                   |            |                 |
|-------------------|------------|-----------------|
| ③ 山形県先進国型養蚕業推進協議会 | ○推進会議（2回）  | ○現地指導（16回、延68人） |
| ④ 愛媛県西予市蚕糸業振興協議会  | ○協議会開催（3回） | ○現地指導（3回、延28人）  |
| ⑤ 宮崎養蚕振興協議会       | ○協議会開催（5回） | ○現地指導（延42人）     |
| ⑥ 奄美島絹推進協議会       | ○協議会開催（6回） | ○現地指導（延30人）     |

## 2 蚕糸絹科学文化継承発展事業

### (1) 蚕糸絹科学文化支援事業

#### ア 蚕糸絹科学文化奨励事業

蚕糸絹の科学技術の振興に関する研究成果の提供、蚕糸絹文化に関する普及活動等に助成を行った。

- |                  |                                      |
|------------------|--------------------------------------|
| ① (社) 日本蚕糸学会     | (蚕糸・昆虫利用に関する研究論文を学会誌・解説紹介誌に掲載・紹介)    |
| ① (一財) 日本蚕糸学会    | (蚕糸・昆虫利用に関する研究論文を学会誌・解説紹介誌に掲載・紹介)    |
| ② (公財) 日本農林漁業振興会 | (農林水産祭参加行事で3賞に選考された優れた技術経営を紹介)       |
| ③ 日本シルク学会        | (シルクに関する研究成果を日本シルク学会誌・研究発表要旨集に掲載・紹介) |
| ④ 中央蚕糸協会         | (蚕糸絹関係の調査、情報資料の収集、蚕糸関係団体との連絡調整等)     |
| ⑤ 富岡シルクブランド協議会   | (富岡製糸場と養蚕農家、碓氷製糸工場を巡る、ぐんまシルクロード旅の試行) |
| ⑥ 富岡製糸場世界遺産伝道師協会 | (富岡製糸場の世界遺産登録に向けた普及啓発活動)             |

#### イ 絹マーク等啓発普及事業

24年12月以降、日本絹業協会が行っていた事業を大日本蚕糸会が引き続いて実施しており、我が国の蚕糸絹文化の発展のため、日本で染織された絹製品に対し「日本の絹マーク」を交付するとともに、その適正な管理を通じて、蚕糸絹に関する啓発を図った。(平成25年度のシール及びタグの配布数：76,120枚)

## ウ 養蚕産地技術指導事業

下記協議会等に対し、優良繭の生産、病虫害防除、選繭等の技術の高度化等、養蚕技術水準の向上を図る実証経費に対し、助成を行った。(助成対象技術員は、以下の9県10協議会36人)

- |                            |                            |
|----------------------------|----------------------------|
| ① 岩手県養蚕活性化推進協議会 (技術員3人)    | ② 宮城県養蚕産地育成協議会 (技術員2人)     |
| ③ 山形県養蚕産地育成協議会 (技術員1人)     | ④ 福島県優良繭生産推進協議会 (技術員7人)    |
| ⑤ 栃木県小山地区養蚕産地育成協議会 (技術員2人) | ⑥ 栃木県北央地区養蚕産地育成協議会 (技術員3人) |
| ⑦ 群馬県養蚕産地育成協議会 (技術員14人)    | ⑧ 千葉県養蚕産地育成協議会 (技術員1人)     |
| ⑨ 信州ブランド繭・蚕用途開発協議会 (技術員2人) | ⑩ 新潟県養蚕振興協議会 (技術員1人)       |

## (2) 蚕糸絹文化生産技術等支援事業

### ア 蚕種関係事業 (蚕種生産安定化事業)

蚕種製造業者の経営安定に資するため、種繭の確保及び特殊蚕品種の生産に対して、以下の各社に助成を行った。

- ① (株)高原社    ② 上田蚕種(株)    ③ 群馬県養蚕産地育成協議会    ④ 愛媛蚕種(株)

## イ 養蚕関係事業

### (ア) 先導的養蚕農家等経営安定化事業

養蚕農家の経営安定に資するため、以下の各養蚕農家に対し、新技術の導入等に伴う蚕飼育関連施設等の改修・整備等の助成を行った。

#### ① 岩手県養蚕活性化推進協議会

農家：石川公信 (新規：蚕室新設)、金田清、千葉俊作、千葉幸男、菅原良一、長谷川精一 (蚕舎改良、飼育用パイプハウス及び桑園管理機)

#### ② 宮城県先進養蚕経営確立推進協議会

農家：目黒啓治、谷津義和、佐藤靖、斉藤茂夫 (動力噴霧機)

③ 山形県先進国型養蚕業推進協議会

農家：下山菊夫（蚕舎改良改修、パイプ蚕舎及び桑葉運搬車）、加藤稔（桑園改良整備、桑園管理機）

④ 福島県先進国型養蚕業確立推進協議会

農家：佐藤正行（蚕舎の改善・改修）、高橋忠俊（桑園管理機）、佐藤治（蚕室洗浄機一式）

⑤ 群馬県養蚕産地育成協議会

農家：狩野恵一（温風暖房機、栽桑エアーク・コンプレッサー）

⑥ 福井県

農家：杉本英夫（桑園造成、改植）

⑦ 愛媛県西予市蚕糸業振興協議会

農家：松下誠（蚕飼育室の増設）

⑧ 奄美島絹推進協議会

農家：南祐和、南修郎、西政吉（桑園造成・植栽・桑苗、蚕室増設、染色施設、小型整糸機）

(イ) 地域養蚕関係事業

地域の養蚕を維持する上で不可欠である、農協等が行う稚蚕共同施設の整備及び農協等からの委託を受けて養蚕農家個人が地域の稚蚕飼育を行う場合の稚蚕飼育施設等に対し助成を行った。

(地域関連事業)

① 宮城県先進養蚕経営確立推進協議会（人工飼料保存施設設置）

② 栃木県先進国型養蚕業推進協議会（稚蚕飼育所自動空調施設改修及び稚蚕飼育機械改修・屋根補修）

③ 群馬県養蚕産地育成協議会（群馬県稚蚕人工飼料センター機械施設補修及び稚蚕飼育機械補修）

④ 山梨養蚕連絡協議会（桑園管理用機械）

⑤ 愛媛県西予市蚕糸業振興協議会（蚕室・蚕具環境改善洗浄機）



(稚蚕飼育受託事業)

- ① 宮城県先進養蚕経営確立推進協議会（目黒啓治・谷津義和： 1～2令稚蚕飼育受託）
- ② 福島県先進国型養蚕業確立推進協議会（みちのく安達農協・松本治介： 1～3令稚蚕飼育受託）
- ③ 茨城みどり農業協同組合（世喜稚蚕共同飼育所： 1～2令稚蚕飼育）
- ④ 栃木県小山地区養蚕産地育成協議会（小山農協稚蚕共同飼育所： 1～2令稚蚕飼育）
- ⑤ 埼玉県（ちちぶ農協・ひびきの農協： 1～2令稚蚕飼育）
- ⑥ 山梨県（芦澤定弘： 1～2令稚蚕飼育受託）
- ⑦ 長野県（株高原社・上田蚕種株）： 1～2令稚蚕飼育）
- ⑧ 愛媛県西予市蚕糸業振興協議会（愛媛蚕種株）： 1～2令稚蚕飼育）

ウ 製糸関係事業

玉繭の安定確保と製糸等の新技術導入に伴う機械・施設の整備、特殊生糸の安定生産等に対し助成を行った。

(ア) 玉繭利用促進事業

碓氷製糸農協（純国産シルクを守る会：玉繭と普通繭を混練して特殊生糸を生産）

(イ) 製糸業等新技術導入事業

- ① 碓氷製糸農協（繭腐敗を防止するための給繭器水冷装置の設置（水冷チラー工事））
- ② 株宮坂製糸所（製糸施設を岡谷市の新蚕糸博物館へ移設して展示と工場の一体化を図り、新たな製糸経営の展開を図る。）

(ウ) 特殊生糸生産安定化事業

- ① 松岡株（煮繭前後の選繭徹底と低速回転による高品質生糸の生産）
- ② 碓氷製糸農協（特殊蚕品種の繭使用及び煮繭前後の選繭の徹底と低速回転による特殊又は高品質生糸の生産）
- ③ シルクカンパニー外村（三眠蚕繭及び優良繭を使用して、生練りの座繰生糸の生産）

- ④ ㈱宮坂製糸所（特殊蚕品種の繭使用及び煮繭前後の選繭の徹底と低速回転による特殊又は高品質な生糸の生産）
- ⑤ 松澤製糸所（煮繭前後の選繭徹底と低速回転による高品質生糸の生産）
- ⑥ 伊予生糸を守る会（改良あけぼの蚕品種を冷蔵保存し、生繰り低速回転による生糸の生産）
- ⑦ 大音特殊生糸共同組合（蚕品種と春期繭を限定して、邦楽器の弦に用いる生繰りの座繰生糸の生産）
- ⑧ 特殊生糸製造業者西村英雄（蚕品種と春期繭を限定して、邦楽器の弦に用いる生繰りの座繰生糸の生産）

## エ 提携グループ関係事業

提携グループ活動の円滑な推進を図るため、純国産絹製品づくりのための条件整備や原料繭の安定輸送に対し助成を行った。

### (ア) 純国産絹製品づくり条件整備事業（機械・機材の整備）

㈱宮坂製糸所（小ロット対応型小枠浸透装置ユニットの設置）

### (イ) 遠距離等繭輸送費助成事業

県外からの繭輸送又は保冷車利用による繭輸送を行っている23提携グループに対し助成を行った。

### (ウ) 蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会助成事業

各提携グループ及び関係機関との連絡・調整並びに協議会運営に必要な事務局設置管理、備品整備等の経費に対し助成を行った。

## 3 東日本大震災関連対策事業

東日本大震災による被害に対し、必要な助成を行った。

碓氷製糸農協（東日本大震災の影響により生じた繭需給の調整）

## Ⅵ ジャパンシルクセンターの展示普及事業

ジャパンシルクセンターは、蚕糸絹業の振興を通じた蚕糸絹文化の継承発展に資するため、ジャパンシルクセンターにおいて蚕糸絹の展示、工房や絹織物産地の特別展示等を実施し、一般消費者等に情報を発信している。

25年度…純国産絹製品展示：11回、特別展示：13回 このほか外部での展示会は下記の通り。

年月日	場所等	展示内容
平成 25 年 4 月 19 日(金)～ 20 日(土)	農業生物資源研究所 (一般公開)	平成 25 年度独立行政法人農業生物資源研究所シルクフェア ・絹製品の展示協力(絹工房、シンカ、シルクマルベリー、TEAR POT)
平成 25 年 6 月 1 日(土)～ 5 日(水)	京都産業会館 (京都市)	純国産絹製品展(京都) ・純国産絹製品の参加展示(綾の手紬染織工房、奄美島絹推進協議会、荒川、伊と幸、岩田、近江真綿振興会、小倉商店、織匠小平、織匠万勝、甲斐絹座、加藤萬、銀座もとじ、J S、大門屋、高島屋、田中種、千總、長島繊維、西陣織工業組合、西陣まいづる、日本蚕糸絹業開発協同組合、平田組紐、布四季庵ヨネオリ、福統織物、宮井、龍工房、りょうぜん天蚕の会) ・製織の実演、繭クラフト、座繰り繰糸の実演 ・パネル展示
平成 25 年 11 月 1 日(金)～ 4 日(月)	旧海南市立第一中学校 (和歌山県海南市)	2013 年全国伝統的工芸品フェスタ in 和歌山 ・パネル展示、座繰り繰糸の実演
平成 25 年 11 月 8 日(金)～ 9 日(土)	明治公園・霞岳広場	第 52 回農林水産祭 実りのフェスティバル ・蚕の飼育展示(蚕技研)、パネル展示、座繰り繰糸の実演 ・富岡製糸場の紹介

## 第二 蚕糸絹に関する研究開発の推進事業

### I 貞明皇后蚕糸記念事業

#### 1 蚕糸科学技術者の表彰

蚕糸功労者表彰式（平成25年11月5日開催）と第56回貞明皇后蚕糸記念科学技術褒賞を次のとおり行った。

国産蚕品種による音色と強度にすぐれた絹箏弦の開発

聖徳大学教授	徳丸吉彦殿
名古屋芸術大学教授	金子敦子殿
生田流箏曲家	米川敏子殿

#### 2 科学技術研究に対する助成

貞明皇后蚕糸記念事業規程の定めに基づいて、蚕糸絹に関する科学技術の研究を助長するため、本年度においては次の11課題について助成した。（合計17,383,679円）

研究課題及び研究内容	助成金額	研究担当者等	備考
課題 精子・卵巣の凍結保存による遺伝子組換えカイコの系統保存システムの構築開発 内容 本研究では、組換えカイコの精子・卵巣の摘出及び凍結保存に適した系統の作出並びに精子・卵巣の採取方法の改良を行った。	1,500,000円	代表 内野 恵郎 農業生物資源研究所 共同研究者 飯塚 哲也 農業生物資源研究所 他	平成24・25年度2ヵ年事業終了

研究課題及び研究内容	助成金額	研究担当者等	備考
<p>課題 フォーマル用染色堅牢度等の向上に関する研究</p> <p>内容 本研究では、万能繰糸機による高品質生糸の繰製や染色堅牢度の向上と濃色加工剤による深みのある黒色について検討し、さらに、極細1号布の特徴を明らかにした。</p>	1,828,062 円	<p>代表 平川 嘉一      ヒラカワプランニング</p> <p>共同研究者 金井 史郎      東北撚糸(株) 他</p>	平成 24・25 年度 2 ヶ年 事業 終了
<p>課題 玉小石単繭糸のセリシンの有無にみる着心地の比較研究</p> <p>内容 本研究では、セリシンの有無による着心地の比較研究を重点に、塩蔵繭から比較研究用の3反の江戸小紋を製作し、着用試験を行った。</p>	1,216,090 円	<p>代表 中谷比佐子      (株)秋櫻舎</p> <p>共同研究者 志村 明      勝山織物(株) 他</p>	平成 24・25 年度 2 ヶ年 事業 終了
<p>課題 交雑三眠蚕品種の開発・改良及びそれらの三眠蚕生糸の特長を活かした純国産絹製品の開発</p> <p>内容 本研究では、実用品種を目指し三眠蚕品種の開発・改良を行った。また、精練の試験を行った。</p>	1,504,890 円	<p>三眠蚕開発利用研究会</p> <p>代表 舞鶴 一雄      西陣まいづる</p> <p>共同研究者 代田 丈志      蚕業技術研究所 他</p>	平成 24・25 年度 2 ヶ年 事業 終了
<p>課題 塩溶液繭繰糸法による生糸の実用化の可能性に関する研究</p> <p>内容 塩溶液繭繰糸法について、揚げ返し過程での生糸への撚りかけ方法や編み物としての実用化の可能性等を検討した。</p>	1,500,000 円	<p>代表 一田 昌利      京都工芸繊維大学准教授</p> <p>共同研究者 高橋 重三      衣笠繊維研究所 他</p>	平成 25・26 年度 2 ヶ年 事業

研究課題及び研究内容	助成金額	研究担当者等	備考
<p>課題 天蚕の優良系統の育成と実用化に関する研究</p> <p>内容 天蚕について、雑種強勢を発揮する交雑の組合せの検討や大型繭の選抜等を行った。</p>	2,000,000 円	梶浦 善太 信州大学教授	平成 25・26 年度 2 ヶ年 事業
<p>課題 カイコ品種の殺虫性毒素タンパク質に対する感受性調査および抵抗性系統の選抜</p> <p>内容 Bt 組換え等作物由来の人工飼料の影響を受けないカイコ実用品種作出のために、様々な Cry 毒素に対してカイコの持っている抵抗性遺伝子の探索を行った。</p>	1,200,000 円	代 表 宮本 和久 農業生物資源研究所 共同研究者 蜷木 理 東京農工大学教授	平成 25・26 年度 2 ヶ年 事業
<p>課題 玉繭品種の育成と効率的な上簇方法の開発</p> <p>内容 繭質の良い玉繭を高率で結繭する品種の育成と効率の良い上簇方法の開発を行った。</p>	2,100,000 円	代 表 飯塚 哲也 農業生物資源研究所 共同研究者 高橋 耕一 宮坂製糸所 他	平成 25・26 年度 2 ヶ年 事業
<p>課題 太繊度糸を効果的に利用した高級和装製品の開発</p> <p>内容 繊度等の物性値に自然な偏差を有し、コシ、光沢等に優れた特長を有する太繊度糸を原料として、着物等の試作を行った。</p>	2,000,000 円	代 表 泉 太郎 泉織物 共同研究者 久保川博夫 群馬県繊維工業試験場 他	平成 25・26 年度 2 ヶ年 事業

研究課題及び研究内容	助成金額	研究担当者等	備考
<p>色繭の特長を有効利用する製糸製織工程の技術開発</p> <p>内容 フラボノイド等色素を含むセリシン層を残す精練技術の開発と精練工程で流出した色素を回収して織物等に再付着させる技術の開発を行った。</p>	1,007,637 円	<p>代表 服部 芳和      グループ167</p> <p>共同研究者 平尾 銀蔵      平尾絹精練工学研究所 他</p>	平成 25・26 年度 2 ヶ年 事業
<p>超極細生糸による世界一薄い織物作成技術の開発</p> <p>内容 蚕糸科学研究所開発の万能繰糸機による超極細生糸の繰製技術及び撚糸等加工技術体系の確立を目指した。</p>	1,527,000 円	<p>代表 齋藤 泰行      齋栄織物</p> <p>共同研究者 金井 史郎      東北撚糸 他</p>	平成 25・26 年度 2 ヶ年 事業

## Ⅱ 蚕業技術研究所の研究開発事業

### 1 重点課題

#### (1) 提携グループへの支援

提携事業の支援として、提携16グループへ特徴ある蚕品種17品種の蚕種を製造し提供した。また、カネボウ系品種の交雑原種及び埼玉県いろどり品種の蚕種製造と提供を行った。

#### (2) 中期活動計画の推進

中期活動計画における後期小課題に沿って研究開発を実施した。また、今後の技術開発の方向性に関わる情報収集に努めた。

#### (3) 大学及び研究機関との連携

東京農工大学、九州大学、農業生物資源研究所等と分子マーカーを使ったW転座染色体とZ染色体との組換え、遺伝子組換え蚕の生殖細胞の凍結保存技術等に関わる共同研究を推進した。

### 2 研究開発の概要

#### (1) 遺伝資源の維持と保存法の開発

遺伝資源・人工飼料チーム：持田裕司・竹村洋子・松本正江

栽桑チーム：松川 武・赤井雅志

育成チーム：常山 泉

研究アドバイザー：大沼昭夫・市橋隆壽

当研究所は遺伝研究用素材及び蚕糸絹業提携事業に向けた育種素材系統など、蚕遺伝資源を多数保持している。平成25年度は科学研究のために東京農工大学等へ4系統を提供した。

蚕遺伝資源の長期保存法に関わる卵巣の凍結保存技術の開発では、卵巣染色法の改良のため各種染料の添食試験を行ったが、



ニュートラルレッドに優る新たな染料を見いだすことはできなかった。また、凍結精子の人工授精技術の改良では、受精補助精液である3倍体の作出に必要となる4倍体の作出に炭酸水が有効であることが確認された。蚕遺伝資源の評価では、平衡致死系統及び食性異常系統の重点的利用のために性状調査を行った。

桑遺伝資源の保存では、埼玉県から桑遺伝資源8品種の保存委託を受けた。また、欠株調査を行い、その対策を講じた。

## (2) 特徴ある蚕品種の開発

育成チーム：常山 泉・飯田のり子・鶴井裕治

遺伝資源・人工飼料チーム：持田裕司・竹村洋子・松本正江

養蚕チーム：代田丈志・野澤瑞佳・浅野栄子

増殖チーム：田中幸夫・池嶋智美・中島水樹

嘱託技師：近藤 進 研究アドバイザー：大沼昭夫

蚕糸絹業提携事業の支援のために、繭糸質に特徴のある蚕品種の開発を行い、また、蚕の機能を活用するために遺伝資源の蚕を用いて特殊な形質を有する蚕品種の開発を進めている。

玉繭系統では、「玉小石」よりも繭重が重く、繭糸長の長い玉繭品種「玉繭2号」を開発した。雄蚕系統の開発では、平衡致死系統と限性黒卵系統を用いて開発した新しい中細織度雄蚕品種の1箱規模の農家委託試験を行った。一方、雌蚕系統の開発では、緑繭遺伝子を導入した平衡致死雄系統(特殊な平衡致死系統の雌と交配する系統)の実用形質の改善を行った。色繭系統の開発では、所内試験によりレモン色の「緑繭2号」及び「笹繭1号」の性状調査を行うとともに、ピンク色の「緋紅」の改良を進めた。交雑三眠蚕の開発では、蚕種の製造効率の向上と繭の生産効率を安定させるための改良を行い、その製品化に向けた調査を行った。初秋蚕用蚕品種の開発に関して、高温多湿環境下では繭重が重い組み合わせほど化蛹歩合が減少する傾向にあった。

### (3) 蚕種の製造及び管理技術の開発

増殖チーム：田中幸夫・池嶋智美・中島水樹

嘱託技師：近藤 進 嘱託職員：山口 満

安定的かつ効率的な蚕種の製造及び管理技術の開発を行っている。とくに、いろいろな蚕品種の小規模な蚕種製造に対応する技術の開発を進めている。

育種素材61系統の継代と評価を実施した。とがり繭を減らす選抜を続けてきたところ、3世代の選抜で顕著な効果が認められた。全齢人工飼料育を行った日本種原々種の5齢末期に20-ヒドロキシエクダイソンを投与し、産卵性に及ぼす効果を調査した。蚕品種の識別技術の開発においては、最新の関連情報を収集・整理した結果、増幅断片長多型(AFLP)による染色体同定の手法は、蚕品種の染色体構成を知るツールとして活用でき、有用遺伝子の導入、あるいは選抜の効率化等に応用が可能であることが分かった。

### (4) 養蚕新技術の開発

養蚕チーム：代田丈志・野澤瑞佳・浅野栄子

遺伝資源・人工飼料チーム：持田裕司・松本正江

研究アドバイザー：大沼昭夫

要望される良質繭の安定的な生産技術、効率的な飼育管理技術及び人工飼料育技術の開発を進めている。

飼育管理法の開発では、飼育の光条件を変えることによる発育調節技術を用いて人為的に発育経過を延長し、繭重を重くすることが可能であることが示された。昆虫成長制御剤(IGR)に対する生物検定法を考案し、蚕におけるIGR剤の感受性に顕著な品種間差異があることを見いだした。ハイビスカスを食する蚕の作出要請を受けて、ハイビスカスの生葉並びに葉及び花の乾燥粉末を含む人工飼料を用いて飼育試験を行った。

### 3 科学技術協力領域の概要

#### (1) 蚕種の製造と提供

##### 蚕種製造部門

増殖チーム：田中幸夫・池嶋智美・中島水樹

育成チーム：常山 泉・飯田のり子・鶴井裕治

遺伝資源・人工飼料チーム：持田裕司・竹村洋子・松本正江

養蚕チーム：代田丈志・野澤瑞佳・浅野栄子

栽桑チーム：松川 武・赤井雅志

嘱託技師:近藤 進 研究アドバイザー：大沼昭夫

多品種少量生産の要請に応えて、春、初秋、晩秋、初冬及び早春の5蚕期に蚕種を製造して管理し、必要な時期に提供している。平成25年度の製造は、普通蚕種32,765蛾、原蚕種14,127蛾、原々蚕種10,452蛾の合計57,344蛾であり、提供は普通蚕種16,120蛾、原蚕種1,761蛾、原原蚕種15蛾の合計17,896蛾であった。

#### (2) 微粒子病の検査

野澤瑞佳・浅野栄子・松本正江・鶴井裕治・中島水樹

微粒子病に罹病していない優れた卵を提供するために、春、初秋、晩秋、初冬及び早春の5蚕期に製造された蚕種について厳密な微粒子病検査を実施した。平成25年度の検査総数は7,274検体であった。検査数量は、蚕糸絹業提携事業に採用される蚕品種の増大と特徴ある蚕品種素材の要望に伴って増加している。不合格蚕種は焼却処分した。

#### (3) 国内外の技術協力

国内での技術協力では、農家指導5件、その他の技術指導5件、技術相談・来訪者受入れ100件の協力を行った。

## 4 蚕糸絹文化活性化支援領域の概要

### (1) 技術指導態勢の高度化

育成チーム：常山 泉・飯田のり子・鶴井裕治

養蚕チーム：代田丈志・野澤瑞佳

栽桑チーム：松川 武・赤井雅志

所内で培われた蚕業技術をマニュアル化し、研修生への指導に活用するとともに、過去に刊行された高等学校の養蚕技術関連教材の改訂等に努めている。また、農家の蚕作の安定と高品質繭の生産のために養蚕農家の技術を調査し、適切な飼育技術及び桑園管理等の指導・助言を蚕糸絹文化活性化事業と連携して行っている。

高等学校用の教科書「蚕種製造」の文章の改定作業及び図表の作成を進めている。JA茨城みどりの依頼を受け、4月に発生した茨城県下の凍霜害の被害状況を調査し、掃立時期や飼育量等について助言を行った。また、新たに開発されたゴムベルトを使用しない電動式毛羽取り装置の収繭作業工程における性能試験を行い、本機種には回転簇から繭を外す機能が備わっていないので、回転簇を使っている農家での収繭作業に導入することは難しいが、山型簇に営繭させた収繭作業には導入可能であることを示した。

所内の桑園管理では、4月に凍霜害があり、7～8月には干魃による桑生育の遅れ等もあったが、桑不足に陥ることはなかった。

また、6月中旬には桑園全体にキボシカミキリが多くみられたので殺虫剤散布を行った。

### (2) 地域文化活動への支援

養蚕チーム：代田丈志・浅野栄子

育成チーム：常山 泉・飯田のり子・鶴井裕治

遺伝資源・人工飼料チーム：持田裕司・竹村洋子・松本正江

研究アドバイザー：大沼昭夫

生きがい養蚕等の蚕糸絹文化活性化活動を支援している。また、提携グループ、シルク工房及び教育機関等からの要望に応じて、作出した蚕品種を農家と類似の環境で大量飼育して特性を調査・評価し、繭素材として提供している。

とくに、平成 25 年度においては、日本大学理工学部の 18 世紀フランス宮廷ドレス復元計画に協力して、フランス在来蚕品種の繭生産と提供を行った。

## 5 蚕種の製造と配布及び蚕遺伝資源の維持利用

### (1) 蚕種製造配布の総括表

蚕種	製造蛾数	配布蛾数	主な配布先
普通蚕種	32,765 蛾	16,120 蛾	蚕種企業、農協・企業、研究・教育機関、個人
原蚕種	14,127 蛾	1,761 蛾	蚕種企業、所内
原原蚕種	10,452 蛾	15 蛾	所内
合計	57,344 蛾	17,896 蛾	

備考：製造蛾数には翌年度用に製造したものが含まれる。また、配布蛾数には前年度に製造したものが含まれている。

### (2) 普通蚕種の製造および配布

品種と製造蛾数 / 配布蛾数	主な配布先
TKO × TC54 (2,803/3,500) プラチナボーイ (4,833/3,249) かい・りょう × あけ・ぼの (2,930/2,640) いろどり (3,946/1,884)	栃木県養蚕産地育成協議会、茨城みどり農業協同組合、 J A 全農千葉県本部、愛媛蚕種株式会社、 多摩シルクライフ 21 研究会、有限会社コバヤシ、 埼玉県農林総合研究センター、ヒラカワプランニング、 J A 甘楽富岡 (三眠蚕開発利用研究会)、大門屋、 有限会社塩野屋、勝山織物株式会社、日本植物防疫協会、 (独) 農業生物資源研究所
緑繭 1 号 (2,175/812) 蚕技研 11 号 (1,591/780)	
極細 1 号 (2,017/600) 山東 3 眠 × C5 (636/525)	
玉小石 (1,037/327) 太平 × 長安 (962/300)	
緑繭 2 号 (2,046/298) 支 108 号 × 青熟 (565/180)	
Fk・N5 × C3・C6 (266/180) 朝・日 × 東・海 (1,612/145)	
限性黒卵交原 × nBL (442/120) 支 21 号 × 四川 3 眠 (267/100)	
製造蛾数 32,765 蛾 / 配布蛾数 16,120 蛾	

備考：配布蛾数には前年度に製造した越年蚕種が含まれている。

## 6 蚕糸科学技術に関する論文、研究会・講演会等における研究発表

### (1) 論文発表

題 名	発表年月	発表雑誌	発 表 者
食品添加物から構成される養蚕用除菌洗浄剤の開発	平成25年3月	蚕糸・昆虫バイオテック 81: 213-220	野澤瑞佳・代田丈志
平衡致死系統と限性黒卵系統を用いた中細織度雄蚕品種の開発	平成25年12月	大日本蚕糸会研究報告 61: 11-20	大沼昭夫・竹村洋子・持田裕司・ 松本正江

### (2) 学会発表

演 題	発表年月	発表場所	発 表 者
遺伝子組換えカイコの系統保存システムの構築	平成26年3月	日本蚕糸学会第84回 学術講演会	内野恵郎・飯塚哲也・持田裕司・ 竹村洋子・瀬筒秀樹
平衡致死系統と限性黒卵系統を用いた新しい中細織度雄蚕品種の作出	平成26年3月	日本蚕糸学会第84回 学術講演会	大沼昭夫・竹村洋子・持田裕司・ 松本正江
DHA系IGR剤に対するカイコの感受性と品種間差異	平成26年3月	日本蚕糸学会第84回 学術講演会	野澤瑞佳・代田丈志

## 7 広報等

内 容	発表年月	発表場所	発 表 者
(二次情報誌発表) 福井県農家の桑園改植への技術指導	平成25年5月	シルクだより46: 5	松川 武
カイコの生殖質凍結保存と移植・個体再生について	平成25年5月	シルクだより46: 6	持田裕司
新しい緑繭と笹繭の蚕品種開発への取り組み	平成26年3月	シルクだより46: 7	育成チーム (常山・飯田・鶴井)

内 容	発表年月	発表場所	発 表 者
(講演) 養蚕農家飼育状況等について	平成25年11月23日	高品質繭品評会視察研修会 (JAおやま桑支店)	代田丈志
養蚕農家の問題点と対策について	平成26年1月22日	いばらき養蚕農家研修会	代田丈志
病気を防ぎ、内部汚染繭を減らすコツ	平成26年2月6日	養蚕振興セミナー(JA全農福島)	野澤瑞佳
蚕病対策について	平成26年2月27日	おやま地区養蚕活性化研修会	野澤瑞佳

## 8 会議等への協力

内 容	年 月 日	主 催 者	発表者・関係者
日本シルク学会大会実行委員会	平成25年4月25日	日本シルク学会	田中幸夫・持田裕司
日本シルク学会常任委員会	平成25年5月9日	日本シルク学会	田中幸夫
シルクシンポジウム	平成25年5月30日	日本シルク学会	持田裕司
日本シルク学会第60回研究発表会、大会	平成25年5月31日	日本シルク学会	田中幸夫
蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会 札幌三越純国産絹「宝絹」展企画会議	平成25年6月11日	蚕糸・絹業提携グループ全国連絡 協議会	所長
蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会 横浜高島屋純国産絹「宝絹」展企画会議	平成25年7月26日	蚕糸・絹業提携グループ全国連絡 協議会	所長
蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会 伊勢丹新宿純国産絹「宝絹」展企画会議	平成25年11月27日	蚕糸・絹業提携グループ全国連絡 協議会	所長
情報通信連絡会	平成25年11月28日	大日本蚕糸会	竹村洋子
日本シルク学会選挙管理委員会	平成25年12月9日	日本シルク学会	竹村洋子
日本シルク学会常任委員会・委員会	平成25年12月11日	日本シルク学会	田中幸夫
情報通信連絡会	平成25年12月12日	大日本蚕糸会	竹村洋子
日本蚕糸学会社員総会	平成25年12月23日	日本蚕糸学会	所長、田中幸夫
内外シルク研究会 第23回	平成26年2月6日	大日本蚕糸会	所長、持田裕司
先進養蚕農家現地検討会	平成26年2月17-18日	日本蚕糸学会	代田丈志

内 容	年 月 日	主 催 者	発表者・関係者
日本シルク学会選挙管理委員会	平成26年2月18日	日本シルク学会	竹村洋子
蚕糸・絹業提携システム全国推進協議会	平成26年2月27日	大日本蚕糸会	所長
日本蚕糸学会社員総会	平成26年3月9日	日本蚕糸学会	所長、田中幸夫
日本蚕糸学会学術講演会、大会	平成26年3月10-11日	日本蚕糸学会	所長、職員7名
蚕種製造をめぐる諸課題の検討会	平成26年3月13日	(財)大日本蚕糸会提携支援センター	所長、職員8名
農業生物資源研究所研究戦略推進会議	平成26年3月13日	(独)農業生物資源研究所	竹村洋子
群馬県蚕糸技術センター研究課題外部評価会	平成26年3月19日	群馬県蚕糸技術センター	所長

## 9 技術指導及び技術相談への対応

内 容	年 月 日	相 談 者	対 応 者
1) 農家指導			
極細1号の上蔭時の取扱い	平成25年6月15日	福島県農家	田中幸夫、近藤 進
桑園診断現地調査	平成25年9月14-15日	山形県農家	市橋隆壽
蚕病対策現地調査	平成25年9月18日	栃木県農家	野澤瑞佳
上蔭室環境改善	平成25年9月17-18日	山形県農家	代田丈志
蚕病防除対策	平成26年3月17-18日	栃木県農家	所長、代田丈志、 野澤瑞佳
2) 技術指導			
茨城県内凍霜害調査	平成25年4月27-28日	J A茨城みどり大宮営農センター	代田丈志
蚕品種の保存および蚕種製造・保護技術の指導	平成25年 5月17日-6月14日	The Queen Sirikit Department of Sericulture Thailand	田中幸夫、池嶋智美、 中島水樹、近藤 進
カイコにおける卵巣移植方法や卵巣発育等の判定について	平成25年5月20日	東京大学	持田裕司、竹村洋子
カイコ精子の凍結保存及び人工授精について	平成25年9月11-12日	(株)免疫生物研究所	竹村洋子
カイコの蛹の雌雄鑑別法の指導	平成26年1月27-28日	京都府養蚕農家、塩野屋	飯田のり子



内 容	年 月 日	相 談 者	対 応 者
<p>3) 技術相談</p> <p>摂食性に関する相談</p> <p>資料の提供</p> <p>玉繭取得に関する相談</p> <p>桑の実品種紹介（資料の提供）</p> <p>桑苗取得に関する相談</p> <p>教材の提供</p> <p>試験用繭の提供</p> <p>研究の企画</p> <p>蚕の提供</p> <p>学習教材の提供</p> <p>蚕糸関係の情報提供</p> <p>蚕の提供</p> <p>試験用繭の乾燥</p> <p>資料（写真）の提供</p> <p>蚕品種指定制度について</p> <p>蚕の提供</p> <p>蚕の提供</p> <p>蚕の提供</p> <p>蚕の提供</p> <p>蚕の提供</p> <p>栃木県内の違作原因</p> <p>蚕の提供</p> <p>蚕種の提供（札幌・三越・宝絹展）</p>	<p>平成25年4月4日</p> <p>平成25年4月8日</p> <p>平成25年4月15日</p> <p>平成25年4月15日</p> <p>平成25年5月9日</p> <p>平成25年6月1日</p> <p>平成25年6月11日</p> <p>平成25年6月12日</p> <p>平成25年5月13日</p> <p>平成25年6月10日</p> <p>平成25年6月19日</p> <p>平成25年7月1日</p> <p>平成25年7月2日</p> <p>平成25年7月10日</p> <p>平成25年7月16日</p> <p>平成25年7月17日</p> <p>平成25年7月17日</p> <p>平成25年7月17日</p> <p>平成25年7月17日</p> <p>平成25年7月17日</p> <p>平成25年7月18日</p> <p>平成25年7月18日</p> <p>平成25年7月24日</p>	<p>一般企業</p> <p>一般市民</p> <p>一般市民</p> <p>(株) あきやま</p> <p>(株) 和楽座</p> <p>一般市民</p> <p>(株) マルシバ</p> <p>平川プランニング</p> <p>神戸大学</p> <p>日野市立仲田小学校</p> <p>一般市民</p> <p>美浦村文化財センター</p> <p>平川プランニング</p> <p>(株) ブル・ドック</p> <p>神奈川県産業技術センター</p> <p>新利根つばさ保育園</p> <p>稲敷市立子育て支援センターあいアイ</p> <p>稲敷市立認定こども園えどさき</p> <p>江戸崎保育園</p> <p>東京農工大学</p> <p>栃木県農業共済連合会</p> <p>蚕糸科学研究所</p> <p>北海道大学</p>	<p>所長</p> <p>所長</p> <p>代田丈志</p> <p>所長</p> <p>代田丈志</p> <p>所長</p> <p>稲吉昇一、青山康司</p> <p>所長、常山 泉</p> <p>竹村洋子</p> <p>庶務部</p> <p>所長</p> <p>浅野栄子</p> <p>稲吉昇一、青山康司</p> <p>所長、常山 泉、 鶴井裕治</p> <p>所長</p> <p>浅野栄子</p> <p>浅野栄子</p> <p>浅野栄子</p> <p>浅野栄子</p> <p>大沼昭夫</p> <p>代田丈志、野澤瑞佳</p> <p>持田裕司</p> <p>持田裕司</p>

内 容	年 月 日	相 談 者	対 応 者
教材の提供	平成25年7月24日	一般市民	所長、小澤希依子
試験用繭の提供	平成25年7月29日	大門屋	常山 泉
試験用繭の提供	平成25年7月30日	平川プランニング	常山 泉
蚕及び繭の乾燥粉末調製法	平成25年7月31日	一般市民	所長
展示用蚕の提供	平成25年8月5日	経済産業省	持田裕司、松本正江
カミキリムシの被害対策について	平成25年8月7日	シルク博物館	松川 武
繭の提供	平成25年8月20日	小山地区養蚕産地育成協議会	代田丈志
除菌洗浄剤の使用方法について	平成25年8月21日	上伊那農業普及センター	代田丈志
教材の提供	平成25年8月28日	日野市立教育センター	庶務部
教材の提供	平成25年8月28日	京都 芋田機業場	庶務部
教材の提供	平成25年8月28日	土浦博物館	庶務部
技術研修について	平成25年9月4日	(株) あきやま	所長
展示用繭の提供	平成25年9月5日	小倉商店	代田丈志
試験用繭の提供	平成25年9月8日	一般市民	常山 泉、飯田のり子
蚕の提供	平成25年9月11日	多摩シルクライフ 21 研究会	田中幸夫
養蚕教科書及び資料の提供	平成25年9月15日	東京都きょうどう歯科	常山 泉
繭の提供	平成25年9月17日	小山地区養蚕産地育成協議会	代田丈志
試験用繭の乾燥	平成25年10月2-3日	平川プランニング	稲吉昇一、青山康司、 野澤瑞佳
原種壮蚕用飼料安全性試験	平成25年10月3日	日本農産工業	田中幸夫
養蚕教科書の提供	平成25年10月28日	(一社) 山形県蚕糸業会	庶務部
展示用蚕の提供	平成25年11月6日	農林水産祭り実りのフェスティバル	持田裕司、松本正江
蚕の提供	平成25年11月17日	神戸大学	竹村洋子
蚕の提供	平成25年11月19日	神戸大学	竹村洋子
座繰糸の提供	平成25年11月21日	東京文化財研究所文化遺産国際協力 センター	浅野栄子
蚕の提供	平成25年11月26日	東京農工大学	大沼昭夫

内 容	年 月 日	相 談 者	対 応 者
蚕と繭の提供及び展示説明 (新宿、伊勢丹、宝絹展)	平成26年1月2-7日	蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会	所長、持田裕司、 松本正江、鶴井裕治、 田中幸夫、代田丈志、 浅野栄子
蚕と繭の提供及び展示説明 (横浜、高島屋、宝絹展)	平成26年1月8-12日	蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会	所長、持田裕司、 竹村洋子、松本正江、 野澤瑞佳
桑園関係の問い合わせ	平成26年1月31日	上毛新聞	市橋隆壽
蚕の提供	平成26年2月5日	東京大学	所長、竹村洋子
掃立てに関する写真資料の提供	平成26年3月4日	岡谷蚕糸博物館	田中幸夫、鶴井裕治
人工飼料調整法について	平成26年3月5日	組紐ジャーリー事務所	常山 泉
貞明助成研究結果の取りまとめ方について	平成26年3月10-11日	塩野屋	常山 泉
蚕と繭の提供及び展示説明 (昭憲皇太后百年祭記念)	平成26年3月22-23日	明治神宮	持田裕司

## 10 来訪者の受入れ

目 的	年 月 日	所 属 & 氏 名
所内見学	平成25年4月10日	一般市民1名、内海呉服店1名
事業相談	平成25年4月11日	(株)和楽座3名
蚕品種について	平成25年4月12日	平川プランニング1名
蚕品種について	平成25年4月25日	平川プランニング1名
研修打合せ	平成25年5月17日	福岡県立若松高校1名
蚕品種について	平成25年6月6日	平川プランニング1名
所内見学	平成25年6月16日	The Queen Sirikit Department of Sericulture Thailand 3名
研究打合せ	平成25年6月17日	繭の芽 STUDIO 1名

目 的	年 月 日	所 属 & 氏 名
所内見学	平成25年6月26日	農業生物資源研究所研究員5名
蚕品種について	平成25年6月28日	平川プランニング1名
研究打合せ	平成25年7月2日	日本大学1名
所内見学	平成25年7月16日	東京農工大学科学博物館絹サークル17名
所内見学・展示打合せ	平成25年7月16日	経済産業省繊維課2名
研究打合せ	平成25年7月30日	平川プランニング1名
所内見学	平成25年8月1日	中国杭州電子科技大学2名
所内見学	平成25年8月10日	(株)三越伊勢丹3名
研究打合せ	平成25年8月15日	塩野屋2名
研究打合せ	平成25年8月19日	東北大学1名
研究打合せ	平成25年8月22日	日本大学1名
研修受入について	平成25年9月3日	(株)あきやま1名
研究打合せ及び所内見学	平成25年9月10日	農業生物資源研究所2名
所内見学	平成25年9月12日	農業生物資源研究所研究員他5名
蚕品種について	平成25年9月27日	平川プランニング1名
養蚕農家見学案内	平成25年10月1日	(株)三越伊勢丹3名
蚕品種について	平成25年10月2日	平川プランニング1名
研究打合せ及び所内見学	平成25年10月3日	神戸大学1名
研究打合せ	平成25年10月3日	一般市民1名、(株)アイケーケー2名
研究打合せ	平成25年10月4日	日本大学1名
所内見学	平成25年10月15日	なでしこ観光ガイドの会8名
蚕及び桑に関する研修	平成25年10月17-19日	福岡県立若松高校1名
研究打合せ	平成25年10月22日	平川プランニング1名
研究打合せ	平成25年10月31日	(株)シスメックス5名
蚕品種について	平成25年11月29日	平川プランニング1名
研究打合せ	平成26年1月8日	(株)シスメックス2名
所内見学、毛羽取り機の見学	平成26年2月4日	新菱冷熱(株)研究所4名

目 的	年 月 日	所 属 & 氏 名
研究打合せ	平成26年2月4日	東京農工大学1名、繭の芽 STUDIO 1名
研究打合せ	平成26年2月7日	農業生物資源研究所1名
人工飼料製造機材の見学	平成26年2月19日	日本農産工業(株)ライフテック部1名
取材(インタビューと施設撮影)	平成26年2月24日	(株)ブル・ドック3名
研究状況に関する意見交換	平成26年2月24日	中央蚕糸協会1名
研究打合せ及び野帳閲覧	平成26年2月28日	九州大学1名
貞明皇后研究助成の取りまとめについて	平成26年3月4-5日	秋櫻舎1名
研究打合せ	平成26年3月25日	塩野屋2名
所内見学	平成26年3月27日	ケニア国行政官3名

#### 11 所内セミナー・研究会等の開催

内 容	年 月 日	発 表 者
平成24年度研究業務実績報告会&研究推進会議	平成25年4月18日	所員、庶務部長、所長
セミナー① Sericulture in Thailand	平成25年5月27日	Pornpinee Boonbundal, Khanittha Klaokliang
セミナー②明治維新後の日本を支えた蚕糸業	平成25年6月18日	高木 賢
セミナー③蚕病研究の思い出	平成25年7月5日	所長
セミナー④カイコにおける遺伝子組換え技術開発の最前線と今後の取組	平成25年11月6日	瀬筒秀樹

## 12 共同研究実施状況

内 容	期 間	共同研究実施先
生殖器官凍結による遺伝子組換えカイコ系統の長期保存技術の開発	平成24年4月～2年間	農業生物資源研究所
交雑三眠蚕品種の開発・改良およびそれらの三眠蚕生糸の特長を活用した純国産絹製品の開発	平成24年4月～2年間	(株)西陣まいづる、蚕糸科学研究所

## 13 研修と調査

題 目	時 期	関係者及び場所
ゲノム情報を活用した蚕品種育成技術について	平成26年2月26-27日	池嶋智美・飯田のり子：日本大学文理学部

## 14 資格取得

資格の名称	時 期	表彰及び団体名
技術士（農業部門 農業及び蚕糸）	平成25年3月	野澤瑞佳

### Ⅲ 蚕糸科学研究所の研究開発事業

#### 1 重点課題

- (1) 提携事業フォローへの積極的な対応と、それに伴う有用技術の開発において、提携グループの各種要請に対応し、太織度低張力糸等の繰製に関する技術的支援、絹素材や製品等の評価等において、積極的に支援を行った。
- (2) 科学技術協力領域の一層の充実において、貞明皇后蚕糸記念科学技術研究助成課題等における、各種調査、物性試験、染色試験及び開発された製品の評価試験等を行った。また、23年度・24年度に続いて、「セリシンと製糸・精練技術—よい糸づくりのために—」を刊行した。
- (3) 大学・研究機関等との連携において、絹文化に関連して各大学や繊維試験場との共同研究を推進するとともに、テキスタイルアドバイザー研修では3大学からの研修生受入れに協力した。

#### 2 研究開発の概要

##### (1) 絹タンパク質の特性解明とその利用技術の開発

###### ア 繭糸の微細構造の解明と繭層微量成分の探索（継続：3年計画3年目）

第4プロジェクト：栗岡 聡

これまでの免疫染色実験の結果から、絹糸腺内ではSer-AとSer-Mは層状構造をとり、両タンパク質は相互に混じり合うことなく極めて整然とした積層構造をもつ可能性が示された。続いて、繭糸セリシンの分布を見るために、絹糸におけるSer-Aの免疫電顕を行い、その層状構造の有無について考察した。

繭糸断面におけるSer-Aの分布を示す金コロイド粒子は、繭糸の辺縁部に集中しているとともにその背景には黒く見える部分があり、この部分の金コロイドの密度が高かった。また、セリシン層内部でも金コロイドを確認することができたが、辺縁部に比べ

て金コロイド密度は低かった。一方、セリシンが相互に接着し合う部位では、表層に分布していたSer-Aが内部に移動している様子が観察された。

以上の結果から、Ser-Aは繭糸表面に多く分布しているものの、セリシン層の広い領域に亘って分布しており、絹糸腺で観察されたように明確な層状構造ではなく、吐糸後の繭糸では各セリシンは相互に混じり合っている可能性が示唆された。

## (2) 新規絹加工技術と絹衣料機能の利用技術の開発

### ア 化学加工による絹ニット製品用かさ高糸の開発（新規：3年計画2年目）

#### 第2プロジェクト：花之内智彦

グラフト加工と化学修飾により、かさ高性、染色性及び耐摩擦性の向上を図ることを目的としている。これまでの検討から、絹の染色性の向上等が期待できるモノマーとして、GMAモノマーを選択し、本モノマーとかさ高性の向上が期待できる他のモノマーとの組合せについて検討した。

グラフト加工は、メタクリル酸グリシジル（GMA）とその他のモノマーとして、スチレン（ST）、メタクリル酸2-ヒドロキシエチル（HEMA）、メタクリル酸メチル（MMA）及びメタクリルアミド（MAA）の4種類とし、GMAと他のモノマー比は、1：0、3：1、1：1、1：3、0：1とした。

その結果、GMAにHEMA（GMA/HEMA）またはST（GMA/ST）を配合した複合加工のグラフト率はモノマーの配合比に関わらず高くなった。未処理に比べ、破断荷重では配合するモノマーや比率に関係なく大きくなるとともに、伸度及びヤング率については、若干低下した。また、かさ高性試験では、未処理に比べ、配合するモノマーや比率に関係なく向上したが、GMA/HEMA複合加工糸では手触りが硬くなった。以上の結果、絹ニット製品用かさ高糸の開発にはGMA/ST複合加工糸が望ましいと判断した。



## イ 絹着装時の快適性と衣服内気候の関係（単年度計画）

第3プロジェクト：薮島富士江・花之内智彦

着衣時の布地の揺れ動きを評価するため、独自に開発した動的ドレープ性観察測定装置を使用し、回転に伴う布地の形状変化の測定を行うとともに、これらの測定結果と布地の曲げ特性やせん断特性等との関係についても検討した。

動的ドレープ性観察測定装置の試料台は、回転数可変型とし、試料台及び試料の大きさは、JIS法のドレープ係数法による剛軟性の試験条件に準拠した。試料台の真上には一眼レフカメラを設置し、回転中の布地の形状変化を撮影できるようにした。布地の経糸方向の布端に直径約3mmのマーカを貼り付け、回転中の布地の連続撮影画像からマーカの座標位置を求め図表化した。9種類の布地を用意し、試料台の回転数を3段階に変えたときの各マーカ位置を比較検討した。

その結果、座標の交点から個々のマーカまでの距離を示すマーカの分布特性は、布地間で異なる傾向を示した。また、マーカの分布特性と曲げこわさ、曲げヒステリシス幅及びせん断こわさ、せん断角5°におけるヒステリシス幅とは、それぞれ相関性がみられる等関連性があることが分かった。

## (3) 絹新素材作出及び効率的生産技術の開発

### ア 繰製プログラムによる特殊形状糸を用いた製品化の研究（新規：2年計画2年目）

第1プロジェクト：岡島正章・天方美帆・鈴木果歩

繭糸交絡攪拌繰糸機による繰製糸に言葉や音楽の情報を内蔵するためのプログラムの開発を行っている。これまで、言葉の情報の予備試験としてモルス信号を内蔵した糸の繰製を行ってきた。続いて、音楽の情報を内蔵させるための繰製プログラムについて検討した。

音楽の例として「かえるの歌」を比較的単純な音楽ファイルであるmidファイルに変換して数値化し、プログラミングソフト「Delphi」を用いて攪拌繰糸機のモーター回転数及び稼働時間を制御し糸を繰製した。当該糸について、レーザー外形測定器を用いて検証したところ、ほぼ音符の違いを糸の太さ及びその長さとして変換されていることを確認した。

イ 万能繰糸機フォロー及び太織度糸フォロー（単年度計画）

第1プロジェクト：岡島正章・天方美帆・鈴木果歩

万能繰糸機では、織度制御として高感度のロードセルセンサーを使用しており、そのキャリブレーション法として、センサーと糸を間歇接触とし、一時的に電通を遮断することで対応した。また、生糸品質及び生産能率の向上等を図るため、(株)宮坂製糸所に移設し、繰製糸の評価を行う等実証試験を行うこととした。

(4) 伝統的蚕糸絹技術の解明とその現代技術化

ア 国産絹弦の普及に向けたフォロー（単年度計画）

第1プロジェクト：岡島正章・天方美帆・鈴木果歩

徳丸吉彦・金子敦子・蚕業技術研究所・弦製造業者

国産絹箏弦の普及を目的として、蚕糸絹活性化事業の助成を受け、「国産絹箏弦の演奏会と体験会」の開催に協力した。演奏会には約160名が参加し、体験会では各大学から応募のあった13名が体験した。

イ 国産組紐の普及に向けたフォロー（単年度計画）

第1プロジェクト：岡島正章・天方美帆・鈴木果歩

道明三保子・志村 明・蚕業技術研究所

国産繭による組紐素材の開発研究におけるこれまでの総括及び今後の国産組紐の普及の検討等において協力した。

### 3 科学技術協力領域の概要

#### (1) 繭鑑定及び生糸検査の実施

25年度の県別鑑定件数は0件であった。16年度から25年度までの鑑定件数の推移を表1に示す。

表1 繭鑑定件数の経年推移（平成16～25年度）

年 度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
県 数	3	3	3	2	2	2	2	1	1	0
鑑定件数	38	34	30	24	19	18	18	5	1	0

#### (2) J A S 認定工場の定期調査

生糸 J A S の廃止決定に伴い、J A S 定期調査の実施はなかった。

#### (3) 各種原料繭の製糸適性試験

平成25年度の蚕業技術研究所において飼育された各種の原種及び交雑種の調査を下記のとおり実施した。

原種調査件数：春蚕期251件、初秋蚕期189件、晩秋蚕期108件、初冬蚕期15件、早春蚕期19件、合計582件。

交雑種調査件数：春蚕期17件、初秋蚕期30件、晩秋蚕期15件、初冬蚕期1件、早春蚕期1件、合計64件。

#### (4) 宮内庁紅葉山御養蚕所産繭の生糸・真綿の繰製

宮内庁の依頼に基づき、紅葉山御養蚕所産繭（小石丸36.1kg、白繭101.1kg、黄繭13.7kg）をお預かりし、御養蚕納めの儀におけるお供え用等の生糸及び真綿に調製し宮内庁に納めた。また、天蚕繭635粒をお預かりし、乾燥後保管した。

#### 4 受託試験・調査

試験調査内容	実施年月日	件数	主な事項・内容等
生糸依頼検査	平成25年 4月1日～4月3日	1	碓氷製糸小石丸生糸物性調査
生糸依頼検査	平成25年 4月3日～4月9日	2	(株)宮坂製糸所産21d生糸検査(極細1号・春嶺×鐘月)
依頼繰糸	平成25年 6月10日～6月19日	1	宮内庁紅葉山御養蚕所(真綿・小石丸・白繭・黄繭)お供え用
依頼繰糸	平成25年7月2日	2	繰糸試験(極細1号・春嶺×鐘月)
依頼繰糸	平成25年7月9日	3	(株)マルシバ繰糸試験(プラチナボーイ)
依頼繰糸	平成25年7月9日	1	ヒラカワプランニング、極細1号万能繰糸機用繰糸試験
依頼繰糸	平成25年 7月16日～7月17日	1	絹箏弦用宮内庁産小石丸(生)10kg繰糸(90d)
依頼繰糸	平成25年 7月18日～7月24日	1	絹箏弦用宮内庁産白繭(生)10kg繰糸(90d)
生糸依頼検査	平成25年 7月22日～7月26日	2	(株)西陣まいづる、山東三眠生糸21d、2点物性検査
生糸依頼検査	平成25年 7月22日～7月26日	2	ヒラカワプランニング、極細1号生糸21d・27d物性検査
依頼繰糸	平成25年8月6日	1	(株)マルシバ、蚕技研11号繰糸試験
生糸依頼検査	平成25年 8月12日～14日	1	斎栄織物(株)、8dブラジル生糸物性検査
依頼繰糸	平成25年 9月17日～9月19日	1	(株)西陣まいづる、山東三眠×(C5×507)1kg繰糸(14d)
依頼繰糸	平成25年 9月24日～9月27日	1	(株)西陣まいづる、山東三眠×(C5×507)1kg繰糸(21d)
依頼繰糸	平成25年10月7日	6	東北大学、7粒定粒 繰糸試験
依頼繰糸	平成25年10月8日	2	岡本(株)R&D、スパイダーシルク繰糸試験

試験調査内容	実施年月日	件数	主な事項・内容等
依頼繰糸	平成25年10月8日	1	NPO 法人無施肥無農薬栽培調査研究会、無施肥繭繰糸試験
生糸依頼検査	平成25年 10月18日～10月24日	3	ヒラカワプランニング、極細1号・新小石丸・かいりょうあけぼの物性検査
生糸依頼検査	平成25年 10月18日～10月25日	2	蚕業技術研究所、玉糸①・③物性検査
依頼繰糸	平成25年10月28日	1	(株) マルシバ、プラチナボーイ繰糸試験
依頼繰糸	平成25年 11月14日～11月15日	2	(株) マルシバ、白繭細1号・蚕技研11号繰糸試験
依頼繰糸	平成25年11月29日	4	東北大学、7粒定粒繰糸試験
依頼繰糸	平成26年 2月3日～2月21日	1	宮内庁紅葉山ご養蚕所（白繭）繰糸
依頼繰糸	平成26年2月10日	1	太織度用、青森県八戸産繭繰糸試験

## 5 蚕糸科学技術に関する論文、研究会、講演会等における研究発表

### (1) 論文発表

題名	発表年月	発表雑誌	発表者
「極細1号」を使用した織物の熱及び水分特性	平成25年12月	大日本蚕糸会研究報告 第61号	薮島富士江、天方美帆、鈴木果歩、 田村照子
蚕品種「極細1号」を使用した織物の力学特性と熱・水分特性	平成26年3月	日本シルク学会誌第22巻	薮島富士江、天方美帆、鈴木果歩、 田村照子
国産蚕品種による絹箏弦の開発－繭品種による絹弦の音色特性－	平成26年3月	日本シルク学会誌第22巻	徳丸吉彦、金子敦子、安藤政輝、 亀川徹、清水重人

## (2) 学会・講演会等における発表

演 題	発表年月	発表場所	発表者
最近の絹素材の開発について	平成25年10月	日本技術士会繊維部会とJTCC (日本繊維技術士センター)の月例会	清水重人
熱水処理における家蚕繭層表面の形態変化	平成25年5月	第60回日本シルク学会研究発表	栗岡 聡
絹黒染め布への深色加工	平成25年5月	第60回日本シルク学会研究発表	花之内智彦、塩崎英樹、平川嘉一
蚕品種「極細1号」使用した素材の特性と快適性との関係	平成25年5月	第60回日本シルク学会研究発表	靄島富士江、田村照子
極細織度繭糸を使用した素材の特性が衣服内気候に及ぼす影響	平成25年6月	日本繊維製品消費科学会 2013年年次大会	靄島富士江、田村照子
繭糸交絡撚拌繰糸による情報内蔵糸の繰製	平成25年5月	第60回日本シルク学会研究発表	岡島正章、森川英明、清水重人
国産繭品種による絹箏弦の特徴	平成25年5月	第60回日本シルク学会研究発表	清水重人、徳丸吉彦、金子敦子

## 6 広報等

内 容	発表年月	発表場所	発表者
万能繰糸機の特長と商品開発の取組み	平成25年5月	シルクレポートNo.30	清水重人
日本シルク学会第60回記念大会を開催して	平成25年9月	シルクだよりNo.44	清水重人
言葉の情報を内蔵した糸の繰製	平成25年9月	シルクだよりNo.44	岡島正章
建染染料による深みのある黒染めの試み	平成25年9月	シルクだよりNo.44	花之内智彦
「いろどり」繭層の抗酸化活性の雌雄差について	平成25年9月	シルクだよりNo.44	栗岡 聡
新たに機能性を付加したユニット型座繰機を完成	平成25年11月	シルクレポートNo.33	清水重人
座繰り・1粒繰り実演	平成25年 8月23日～25日	札幌三越	岡島正章、天方美帆、鈴木果歩、 清水重人
繭と生糸の話し	平成25年8月24日	札幌三越	清水重人

内 容	発表年月	発表場所	発 表 者
座繰り・1粒繰り実演	平成26年 1月3日～7日	新宿伊勢丹	岡島正章、天方美帆、鈴木果歩、 清水重人
座繰り・1粒繰り実演	平成26年 1月8日～12日	横浜高島屋	岡島正章、天方美帆、鈴木果歩、 清水重人

## 7 会議への協力

内 容	年 月 日	主 催 者	発表者・関係者
製糸技術検討会打合せ	平成25年4月10日	蚕糸科学研究所	所長
提携グループ全国連絡協議会会議	平成25年4月11日	大日本蚕糸会	所長
国産絹弦普及打合せ	平成25年4月12日	国産絹箏弦普及の会	所長
平成24年度研究業務実績報告会	平成25年4月16日	大日本蚕糸会	全所員
日本シルク学会会計監査	平成25年4月17日	蚕糸科学研究所	鈴木果歩
平成25年度第1回蚕糸褒賞等選考委員会	平成25年4月22日	大日本蚕糸会	所長
日本シルク学会第60回大会実行委員会	平成25年4月25日	蚕糸科学研究所	所員
製糸技術検討会打合せ	平成25年4月25日	蚕糸科学研究所	所長
日本シルク学会常任委員会	平成25年5月9日	蚕糸科学研究所	所員
製糸技術検討会	平成25年5月26日	蚕糸科学研究所	所長他
蚕糸褒賞等選考予備審査	平成25年5月17日	大日本蚕糸会	所長
日本シルク学会第60回記念シンポジウム	平成25年5月30日	日本シルク学会	所員全員
日本シルク学会第60回研究発表会	平成25年5月31日	日本シルク学会	所員全員
提携グループ全国連絡協議会打合せ	平成25年6月11日	提携G全国連絡協議会	所長
平成25年度第2回蚕糸褒賞等選考委員会	平成25年6月13日	大日本蚕糸会	所長

内 容	年 月 日	主 催 者	発表者・関係者
大日本蚕糸会情報委員会	平成25年6月21日	大日本蚕糸会	栗岡聡
提携グループ全国連絡協議会打合せ	平成25年6月25日	提携 G 全国連絡協議会	所長
理事会・評議員会	平成25年6月27日	大日本蚕糸会	所長、庶務部長
日本シルク学会第60回実行委員会打合せ	平成25年7月5日	日本シルク学会	所員全員
研究打合せ	平成25年7月10日	超極細生糸による世界一薄い織物 作成技術の開発研究会	所長、岡島正章
国産絹弦普及打合せ	平成25年7月19日	国産絹箏弦普及の会	所長
第1回蚕糸絹業コンクール表彰式	平成25年7月23日	大日本蚕糸会	所長、庶務部長
製糸技術検討会打合せ	平成25年7月24日	蚕糸科学研究所	所長他
提携グループ全国連絡協議会打合せ	平成25年7月26日	提携 G 全国連絡協議会	所長、岡島正章
提携グループ全国連絡協議会・ブルドッグ打合せ	平成25年7月29日	提携 G 全国連絡協議会	所長他
製糸技術検討会打合せ	平成25年8月20日	蚕糸科学研究所	所長他
生糸の日本農林規格の確認等の原案作成委員会	平成25年8月27日	(独) 農林水産消費安全技術センター	所長
ビル管理協議会	平成25年9月5日	大日本蚕糸会	所長、庶務部長
製糸技術検討会打合せ	平成25年9月12日	蚕糸科学研究所	所長他
伊勢神宮式年遷宮祭	平成25年10月2日	伊勢神宮	所長
国産絹弦普及打合せ	平成25年10月4日	国産絹箏弦普及の会	所長
シルクサミット2013・久米島	平成25年10月10日	(独) 農業生物資源研究所・ 大日本蚕糸会	所長
国産絹弦普及打合せ	平成25年10月18日	国産絹箏弦普及の会	所長
平成25年度表彰式	平成25年11月5日	大日本蚕糸会	全員



内 容	年 月 日	主 催 者	発表者・関係者
国産組紐等研究打合せ	平成25年11月12日	文化ファッション機構	所長
ボイラー火入れ式	平成25年11月13日	蚕糸科学研究所	所長、庶務部長
製糸技術検討会打合せ	平成25年11月29日	蚕糸科学研究所	所長他
大日本蚕糸会役付理事会	平成25年12月 5 日	大日本蚕糸会	所長
製糸技術検討会打合せ	平成25年12月12日	蚕糸科学研究所	所長
所内中間報告会	平成25年12月17日	蚕糸科学研究所	全員
米川敏子リサイタル	平成25年12月18日	紀尾井ホール	所長他
国産絹弦普及打合せ	平成25年12月20日	国産絹箏弦普及の会	所長
賀詞交歓会	平成26年 1 月 7 日	大日本蚕糸会	所長他
提携グループ全国連絡協議会宝絹展打上会	平成26年 1 月14日	提携 G 全国連絡協議会	所長
国産絹弦普及打合せ	平成26年 1 月17日	国産絹箏弦普及の会	所長
国産絹弦演奏会・体験会	平成26年 1 月18日	国産絹箏弦普及の会	所長他
文化学園大学記念講演	平成26年 1 月28日	文化学園大学	所長他
国産絹弦普及打合せ	平成26年 2 月 4 日	国産絹箏弦普及の会	所長
大日本蚕糸会役付理事会	平成26年 2 月 6 日	大日本蚕糸会	所長
内外シルク研究会	平成26年 2 月 6 日	中央蚕糸協会	所長他
養蚕農家現地検討会	平成26年 2 月17日	大日本蚕糸会	所長
提携グループ全国連絡協議会宝絹展打上会	平成26年 2 月19日	提携 G 全国連絡協議会	所長
提携グループ全国連絡協議会ブルドッグ打合せ	平成26年 2 月25日	提携 G 全国連絡協議会	所長
提携グループ全国連絡協議会会議	平成26年2月27日	提携 G 全国連絡協議会	所長

内 容	年 月 日	主 催 者	発表者・関係者
国産絹弦普及打合せ	平成26年3月4日	国産絹箏弦普及の会	所長
防災訓練	平成26年3月13日	蚕糸科学研究所	全員
国産絹弦普及打合せ	平成26年3月18日	国産絹箏弦普及の会	所長
第2回蚕糸絹業コンクール表彰式	平成26年3月20日	大日本蚕糸会	庶務部長
所内発表会	平成26年3月27日	蚕糸科学研究所	全所員
蚕糸団体幹部会・役員会・庶務連絡会	毎月の月初め	大日本蚕糸会	所長、庶務部長
所内定例	毎月の月初め	蚕糸科学研究所	全所員

## 8 研修・技術指導及び技術相談への対応

内 容	年 月 日	相 談 者	対 応 者
東京農工大学農学部集中講義・蚕糸科学特論	平成25年6月7日	東京農工大学大学院生	清水重人
東京農工大学農学部集中講義・蚕糸科学特論	平成25年6月14日	東京農工大学大学院生	栗岡聡、花之内智彦
プラチナボーイの品質評価他	平成26年3月12日	J A茨城みどり研修会	所長他所員
ニット産着の洗濯による収縮と硬化について	平成25年9月6日	田中種（株）	葩島富士江
くず繭の機能性と衣料品への利用	平成26年2月4日	(株) ドリーム	葩島富士江

## 9 テキスタイルアドバイザー研修

内 容	年 月 日	研 修 者	対 応 者
テキスタイルアドバイザー研修	平成25年 8月26日～30日	文化学園大学・東京家政学院大学・ 和洋女子大学・実践女子大学	全所員

## 10 来訪者の受入れ

目 的	年 月 日	所属・氏名
シルクについて	平成25年4月11日	(株) 小学館プレシヤス編集部 1名
研究打合せ	平成25年4月17日	(株) 秋櫻舎 1名、勝山織物 (株) 絹織物研究所 1名
シルクストッキングについて	平成25年5月7日	個人 1名
製糸の見学	平成25年5月13日	東京農工大学科学博物館友の会絹サークル 5名
インドの養蚕・製糸について、製糸の見学	平成25年5月13日	新東亜交易 (株) 2名
貞明研究打合せ	平成25年5月27日	舞鶴 1名
札幌三越打合せ	平成25年5月28日	提携グループ全国連絡協議会事務局 1名、他 2名
イベント打合せ	平成25年6月4日	藍住町教育委員会社会教育課 1名
所内見学	平成25年6月4日	蚕業技術研究所研修者タイ人 3名、蚕業技術研究所副 所長
乾燥繭の搬入と製糸見学	平成25年6月5日	宮内庁侍従職 1名、他 3名
所内見学	平成25年6月5日	農林水産省生産局 2名、提携支援センター事務局 1名
図書室閲覧他	平成25年6月11日	横浜開港資料館 1名
繰糸の録画	平成25年6月12日	宮内庁侍従職 1名、他関係者 3名
生糸について、所内見学	平成25年6月17日	東北大学教授 1名
揚返、ねじり、括造りの録画	平成25年6月18日	宮内庁侍従職 1名、他関係者 3名
生糸検査について	平成25年6月24日	(株) ライノ 1名
所内見学	平成25年6月27日	セイコーエプソン (株) 1名
ウズベキスタン蚕糸業について	平成25年7月2日	蝶理MODA (株) 2名、他 1名

目 的	年 月 日	所属・氏名
研究打合せ	平成25年7月3日	ヒラカワプランニング1名、イギン（株）2名
打合せ	平成25年7月8日	東北大学教授1名
打合せ	平成25年7月11日	（株）ブル・ドック1名
繰糸見学	平成25年7月16日	結工房1名、他1名
繰糸見学	平成25年7月17日	ヒラカワプランニング1名
イベント打合せ	平成25年7月17日	藍住町教育委員会2名、愛荘町商工観光課2名
繰糸見学	平成25年7月17日	絹箏弦普及の会2名、他1名
研究打合せ	平成25年7月23日	（株）秋櫻舎1名、勝山織物（株）絹織物研究所1名
蚕糸科学研究所玄関の撮影	平成25年7月29日	（株）ブル・ドック1名
打合せ	平成25年8月2日	東北大学教授1名
研修打合せと所内見学	平成25年8月9日	実践女子大学1名
研修打合せと所内見学	平成25年8月20日	和洋女子大学1名
研修打合せと所内見学	平成25年8月27日	文化学園大学1名
本場結城紬について、所内見学	平成25年9月3日	小山市役所経済部工業振興課3名
所内見学	平成25年9月4日	田中種（株）1名
繰糸試験依頼	平成25年9月24日	NPO 法人無施肥無農薬栽培調査研究会1名
宝絹展打合せ、所内見学	平成25年10月8日	（株）三越伊勢丹2名、関係者2名、（株）甲斐絹座1名、他1名、（株）マルシバ1名、提携支援センター事務局1名
研究打合せ・所内見学	平成25年11月28日	日本大学理工学部教授1名
打合せ・所内見学	平成26年2月5日	市立岡谷蚕糸博物館1名

目 的	年 月 日	所 属 ・ 氏 名
図書資料、所内見学	平成26年2月10日	N H K 前橋放送局 1 名
絹への化学加工に関する相談、所内見学	平成26年2月12日	三菱商事ファッション商品企画部 1 名
教材用画像、所内見学	平成26年2月24日	両角事務所編集ライター 1 名
宝絹ブランドブック取材	平成26年2月25日	提携グループ全国連絡協議会事務局 1 名、 (株)ブル・ドック 2 名、他 1 名
図書資料の閲覧	平成26年2月28日	N H K 前橋放送局 1 名
ふい絹の特徴、所内見学	平成26年2月28日	西陣織会館 1 名
プラチナボーイの研修・所内見学	平成26年3月12日	J A 茨城みどり養蚕部会 6 名
繰糸見学、所内見学	平成26年3月20日	日東紡N E X T 推進部 2 名
所内見学	平成26年3月27日	(株)マルシバ 1 名、青山着物学院 5 名

## 11 所内セミナー

内 容	年 月 日	発 表 者
井上元前蚕業技術研究所長退任挨拶・セミナー	平成25年7月12日	全所員
25年度所内研究業務中間報告会	平成25年12月17日	全所員
嶋崎昭典客員研究員退任挨拶・セミナー	平成25年3月27日	全所員
25年度所内研究業務実績報告会	平成25年3月27日	全所員

## 12 共同研究実施状況

内 容	期 間	共同研究実施先
万能繰糸機による6デニール生糸繰製技術	平成25年～26年	超極細生糸による世界一薄い織物作成技術の開発 (貞明皇后蚕糸記念科学技術研究助成課題)
染色堅牢度等の向上に関する技術開発	平成24年～25年	フォーマル用染色堅牢度等の向上に関する研究 (貞明皇后蚕糸記念科学技術研究助成課題)
物性試験及び着心地等の評価	平成24年～25年	玉小石単繭糸のセリシンの有無にみる着心地の比較 (貞明皇后蚕糸記念科学技術研究助成課題)

## 13 技術書の発行

課 題 名	年 月 日	執 筆 者
セリシンと製糸・精練技術－よい糸づくりのために－	平成26年3月	製糸技術検討会

### 第三 法人管理運営事業

#### I 蚕糸会館及びサンケンビルディングの管理運営

##### 1 建物の管理

蚕糸会館は、大型テナントの退去に伴い新規テナント誘致活動を積極的に進めた結果、14社の新規入居テナントがあった。なお、サンケンビルディングについては、平成26年3月末現在で空室はない。

##### (1) 蚕糸会館

ア 利用者、在館人員（平成26年3月31日現在）

- ・ 本会（会議室、談話室、書庫等を含む）
- ・ 蚕糸農業団体 1テナント
- ・ その他のテナント 30テナント
- ・ 空室 5室
- ・ 在館人員280名（男199名・女81名）本会を含む。

イ テナントの異動

【入居】 14件

【退去】 3件

ウ 会議室等の利用

- ① 会議室 3室（109.4坪）  
延使用回数 141回
- ② 駐車場 収容可能台数 29台  
7～22時営業、30分260円
- ③ 談話室 1室（19.1坪）  
10～18時利用、会員数 個人88名（年会費5,000円）

## エ 保守管理

ビルメンテナンスの委託先：日本ビルサービス株式会社

(委託内容)

設備管理・運転、保安警備及び駐車場管理、清掃（共用・専用部共）、環境衛生管理、設備機器特別保守管理、植栽管理

## オ 防火管理機構

共同防火管理協議会主催行事

平成25年9月2日 防災訓練（大地震発生時の初動措置対応訓練、放送訓練）

平成25年11月18日 共同防火管理協議会

平成25年11月22日 総合消防訓練（通報、初期消火、避難誘導、救急救護等）

## (2) サンケンビルディング

ア 利用者、在館人員（平成26年3月31日現在）

- ・ 蚕糸科学研究所 1階～2階
- ・ テナント 4テナント（B1～5階）
- ・ 空室 なし
- ・ 在館人員673名（男397名、女276名）

イ テナントの異動

**【退 去】**

退去テナントはない。

**【入居・契約改定】**

入居・契約改定はない。

ウ 自走式駐車場の利用

月極駐車場（夜間カード対応）



収容可能台数 34台

## エ 保守管理

① ビルメンテナンスの委託先 日本ビルサービス株式会社

(委託内容)

設備管理・運転、保安警備及び駐車場管理、清掃（共用部）、環境衛生管理、設備機器特別保守管理

② 庭園他植栽メンテナンスの委託先 株式会社岩城

(委託内容)

植栽樹木、芝生等の管理

## オ サンケンビルディング設備・警備連絡会

本会と賃借人日本生活協同組合連合会ほか3法人との間で設備・警備連絡会を設け、年に2回程度、建物内外の管理、運営等について協議している。

## カ 防火管理機構

共同防火管理協議会主催行事

平成25年9月2日 防災訓練（大地震発生を想定した避難訓練、放送訓練）

平成26年3月13日 総合消防訓練（通報、初期消火、避難誘導、救急救護等）

## 2 建物及び設備機器等の主な修繕工事

### (1) 蚕糸会館

ア. WHM（電力計）取替工事

イ. 間仕切り増設工事：4階、5階、7階、7階（南・北）、9階、10階

ウ. 7階倉庫現状回復工事

エ. PAC室外機修理工事：5階、9階系統、PAC室内機部品交換

- オ. 中央監視盤伝送ユニット整備工事
- カ. 消防設備修繕工事
- キ. 空調機械室（B2）熱源水ポンプ増設工事
- ク. 6階本会事務所改修・移転工事
- ケ. 積算電力計WHM取替工事
- コ. 電気室内V C B交換工事

## （2）サンケンビルディング

- ア. 外壁修繕工事
- イ. 植栽年間維持管理工事
- ウ. エレベータ安全強化対策工事
- エ. 車寄せ舗装打ち替え工事
- オ. 多管式貫流ボイラー交換（A研1号機ボイラー）工事

## （3）蚕業技術研究所

- ア. 第1・第2蚕室ファンコイルユニットエアコン改修工事

## Ⅱ 管理に関する事項

### 1 一般財団法人への移行認可申請及び設立登記等

内閣府に対し、一般財団法人への移行認可申請を平成25年7月31日付で行い、平成26年3月19日付で認可され、平成26年4月1日付で、財団法人大日本蚕糸会の解散登記及び一般財団法人大日本蚕糸会の設立登記を行った。

### 2 一般財団法人への移行に伴う定款の変更並びに諸規程の制定及び改廃

平成25年6月27日及び平成26年3月24日開催の理事会・評議員会において、移行登記を条件として、定款の変更、諸規程等の制定及び改廃について決議し、移行登記を行った4月1日付で施行した。

(1) 定款の変更

(2) 諸規程の制定

①役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規程 ②財産運用管理規程 ③事業推進基金管理規程 ④印章管理規程

(3) 諸規程の改正

①組織規程 ②会計処理規程 ③蚕糸・絹業提携支援緊急対策基金管理規程

(4) 諸規程の廃止

①基本財産減価償却引当資産取扱規程

(5) その他

一般財団法人移行後の諸規程の有効性確認と一括読替変更

### 3 法人登記及び監督官庁への申請届出事項等

(1) 平成24年蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業実績報告書

(平成25年5月7日、農林水産省生産局長)

(2) 平成24年度業務及び財産状況等報告書

(平成25年6月28日、文部科学大臣・農林水産大臣)

(3) 登記の変更に伴う届出及び監事の異動届

(平成25年7月30日、文部科学大臣・農林水産大臣)

- |  |  |
|--|--|
| (4) 定時理事会・評議員会議事録届出                        | (平成25年7月30日、文部科学省学術機関課長<br>農林水産省生産局地域作物課長) |
| (5) 一般財団法人への移行認可申請書提出(電子申請)                | (平成25年7月31日、内閣総理大臣)                        |
| (6) 平成26年度生糸・絹製品の展示普及等推進事業実施計画書の承認について(申請) | (平成26年3月13日、農林水産省生産局長)                     |
| (7) 平成26年度事業開始に伴う届出                        | (平成26年3月31日、文部科学大臣・農林水産大臣)                 |
| (参考)                                       |  |
| ①名称変更による移行登記(設立及び解散)                       | (平成26年4月1日)                                |
| ②移行登記完了届出書                                 | (平成26年4月15日、文部科学大臣・農林水産大臣)                 |
| ③平成26年度蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業実施計画の協議              | (平成26年4月24日、農林水産省生産局長)                     |

### Ⅲ 会議の開催

#### 1 理 事 会

「第1回」平成25年6月27日蚕糸会館会議室において開催

##### 審 議 事 項

- |       |                       |
|-------|-----------------------|
| 議案第1号 | 平成24年度事業報告について        |
| 議案第2号 | 平成24年度収支計算書及び財務諸表について |
| 議案第3号 | 平成25年度蚕糸功労者表彰について     |
| 議案第4号 | 平成25年度貞明皇后蚕糸記念褒賞について  |
| 議案第5号 | 奨励賞について               |
| 議案第6号 | 一般財団法人への移行認可申請について    |
| 議案第7号 | 一般財団法人移行のための定款の変更について |

- 議案第8号 一般財団法人移行後の「役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規程」について  
議案第9号 一般財団法人移行後の諸規程の有効性確認と一括読替変更について  
議案第10号 平成26年度以降の蚕糸絹業提携支援策について  
議案第11号 評議員の改選について  
議案第12号 評議員会提出議案について  
その他事項

「第2回」平成26年3月24日 蚕糸会館会議室において開催

審 議 事 項

- 議案第1号 平成26年度事業計画について  
議案第2号 平成26年度収支予算について  
議案第3号 一般財団法人大日本蚕糸会定款第6条第2項(1)に規定する基本財産の指定について  
議案第4号 一般財団法人移行に伴う規程の整備について  
(1) 財産運用管理規程の制定 (2) 事業推進基金管理規程の制定 (3) 印章管理規程の制定  
(4) 組織規程の改正 (5) 会計処理規程の改正 (6) 蚕糸・絹業提携支援緊急対策基金管理規程の改正  
(7) 基本財産減価償却引当資金取扱規程の廃止  
議案第5号 小平都市計画道路事業3.2.8府中所沢線の整備に伴う土地の処分について  
議案第6号 評議員会提出議案について  
その他事項

## 2 評 議 員 会

「第1回」平成25年6月27日蚕糸会館会議室において開催

### 審 議 事 項

- 議案第1号 平成24年度事業報告について
  - 議案第2号 平成24年度収支計算書及び財務諸表について
  - 議案第3号 平成25年度蚕糸功労者表彰について
  - 議案第4号 平成25年度貞明皇后蚕糸記念褒賞について
  - 議案第5号 奨励賞について
  - 議案第6号 一般財団法人への移行認可申請について
  - 議案第7号 一般財団法人移行のための定款の変更について
  - 議案第8号 一般財団法人移行後の「役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規程」について
  - 議案第9号 一般財団法人移行後の諸規程の有効性確認と一括読替変更について
  - 議案第10号 平成26年度以降の蚕糸絹業提携支援策について
  - 議案第11号 理事・監事の改選について
- その他事項

「第2回」平成26年3月24日 蚕糸会館会議室において開催

### 審 議 事 項

- 議案第1号 平成26年度事業計画について
  - 議案第2号 平成26年度計収支予算について
  - 議案第3号 一般財団法人大日本蚕糸会定款第6条第2項(1)に規定する基本財産の指定について
  - 議案第4号 一般財団法人移行に伴う規程の整備について
- (1) 財産運用管理規程の制定 (2) 事業推進基金管理規程の制定 (3) 印章管理規程の制定

- (4) 組織規程の改正 (5) 会計処理規程の改正 (6) 蚕糸・絹業提携支援緊急対策基金管理規程の改正
- (7) 基本財産減価償却引当資金取扱規程の廃止

議案第5号 小平都市計画道路事業3.2.8府中所沢線の整備に伴う土地の処分について  
その他事項

### 3 監事会

平成25年6月7日 蚕糸会館会議室において開催

#### 監査事項

平成24年度事業執行状況並びに同年度収支計算書及び財務諸表（貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録、キャッシュフロー計算書）等について

### 4 各種委員会等

#### (1) 蚕糸褒賞等選考委員会

##### (委員)

- 井上 元 (蚕業技術研究所所長)
- 黄色 俊一 (東京農工大学名誉教授)
- 狩野 寿作 (前 群馬県蚕糸園芸課絹主監)
- 河上 清 (元蚕糸・昆虫農業研究所所長)
- 小島 伸一 (日本絹人織織物工業会専務理事)
- 小林 迪弘 (名古屋大学名誉教授)
- 佐藤 豊 (大日本蚕糸会顧問)

島田俊弘（中央蚕糸協会顧問）  
清水重人（蚕糸科学研究所所長）  
西文秀（中央蚕糸協会副会長）  
三浦幹彦（信州大学名誉教授）

第1回 平成25年4月22日 蚕糸会館会議室において開催

審議事項

平成25年度貞明皇后蚕糸記念科学技術研究助成対象の選考及び完了事業の成果発表について

第2回 平成25年6月13日 同上において開催

審議事項

平成25年度蚕糸功績賞及び貞明皇后蚕糸記念科学技術褒賞の候補者の選考等について

(2) 蚕糸絹業提携システム全国推進協議会

平成26年2月27日 蚕糸会館会議室において開催

委員 農林水産省生産局地域作物課長、経済産業省製造産業局繊維課長、蚕種関係者、養蚕関係者  
製糸関係者、生糸流通関係者、絹織物関係者、絹織物流通関係者、小売関係者、学識経験者、本会会頭等  
合計34名

協議内容

提携事業の実施状況の報告と今後の実地方針等について協議した。

(3) 平成25年度 蚕糸絹文化活性化推進事業審査会

委員 黄色俊一（東京農工大学名誉教授）



高林 千幸 (市立岡谷蚕糸博物館館長)

小泉 勝夫 (元 財団法人シルクセンター国際貿易観光会館部長)

第1回 平成25年4月24日 蚕糸会館において開催

議 題 平成25年度蚕糸絹文化活性化推進事業(第1次分)の審査(審査件数43件)

第2回 平成25年7月25日 (同上において開催)

議 題 平成25年度蚕糸絹文化活性化推進事業(第2次分)の審査(審査件数34件)

第3回 平成25年10月23日 (同上において開催)

議 題 平成25年度蚕糸絹文化活性化推進事業(第3次分)の審査(審査件数23件)

#### (4) 純国産絹マーク審査委員会

##### 委 員

赤澤 結花 (ドレスメーカー学院講師)

勝野 盛夫 (元蚕糸科学研究所長)

小島 伸一 (一般社団法人日本絹人織織物工業会専務理事)

佐々木亮一 (前京都織物卸商業組合常務理事)

道明三保子 (文化学園大学名誉教授)

富澤輝実子 (前美しいキモノ副編集長)

藤井 健三 (元京都市繊維技術センター研究部長)

松田 正雄 ((社)日本繊維機械学会繊維・未来塾 塾長)

第1回 平成25年5月24日（書面審査）

審議事項 純国産絹マークの使用許諾の審査（13件許諾）

第2回 平成25年7月22日 蚕糸会館において開催

審議事項 純国産絹マークの使用許諾の審査（22件許諾）

第3回 平成25年9月26日（書面審査）

審議事項 純国産絹マークの使用許諾の審査（11件許諾）

第4回 平成25年11月25日（書面審査）

審議事項 純国産絹マークの使用許諾の審査（18件許諾）

第5回 平成26年1月27日 蚕糸会館において開催

審議事項 純国産絹マークの使用許諾の審査（15件許諾）

第6回 平成26年3月5日（同上において開催）

審議事項 純国産絹マークの使用許諾の審査（12件許諾）

## Ⅳ 役員等の異動

### 1 役員の変更

平成25年6月27日開催評議員会において、任期満了に伴う役員の変更を行った結果、次のとおり選任し、同年7月11日付でそれぞれ就任した。

#### （1）理事

高木 賢（重任）	久保 脩（重任）	草野 洋一（重任）
安藤 俊幸（重任）	新保 博（新任）	清水 重人（重任）
岡田 宣世（新任）	小林 迪弘（重任）	林 良博（新任）
牧口 正則（重任）	三浦 幹彦（重任）	

〔退任〕

茂木雅雄  
小笠原小枝

井上元  
平田弘

岩本謙三

(2) 監事

氏家昇一(新任)

袖山裕行(重任)

〔退任〕

鈴木重雄

## 2 評議員の改選

平成25年6月27日開催理事会において、任期満了に伴う評議員の改選を行った結果、次のとおり選任し、同年7月11日付でそれぞれ就任した。

市川 駿(重任)	○黄色 俊一(重任)	河上 清(重任)
○小島 伸一(重任)	小林 正彦(重任)	○嶋田 透(重任)
○関 秀一(新任)	○高村 育也(重任)	○道明 三保子(重任)
樋口 泰三(重任)	○古澤 壽治(重任)	○宮坂 照彦(重任)
○森川 英明(新任)		

(注) ただし、一般財団法人へ移行(平成26年4月1日)までとし、発足時の最初の評議員については、平成25年2月7日の臨時理事会・評議員会で候補者を推薦し、同年2月25日「最初の評議員選定委員会」で選定済み(○印)

〔退任〕

白井 汪 芳

宮澤 津多登

### 3 役付理事の互選

平成25年6月27日開催第2次理事会において、任期満了に伴う役付理事の互選を行った結果、次のとおり互選し、同年7月11日付でそれぞれ就任した。

会頭	高 木 賢
副会頭	久 保 脩
常務理事	草 野 洋 一
常務理事	安 藤 俊 幸
蚕業技術研究所長	新 保 博 (新任)
蚕糸科学研究所長	清 水 重 人



〔附表〕

## 1 主要業務日誌

年 月 日	事 項	年 月 日	事 項
25年4月2日	本会会計監査（あずさ監査法人 現物監査）	10月15日	談話室総会
4月11日	蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会総会	10月24日	中国国際シルクフォーラム～26日
4月16日	蚕糸科学研究所・蚕業技術研究所研究業務実績報告会	11月5日	蚕糸功労者表彰式
4月22日	蚕糸褒賞等選考委員会（研究助成）	11月28日	常陸宮総裁殿下御誕生御祝記帳
4月24日	蚕糸絹文化活性化推進事業審査会（7/25、10/23）	12月5日	本会役付理事会（2/6）
5月14日	皇居紅葉山御養蚕所訪問	12月6日	本会資金運用委員会（3/28）
5月15日	本会会計決算監査（あずさ監査法人）～21日	12月28日	常陸宮総裁殿下に年末ご挨拶
5月22日	蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会WG（6/11）	26年1月2日	純国産宝絹展（新宿伊勢丹～7日）
5月24日	純国産絹マーク審査会（7/22、9/26、11/25、1/27、3/3）	1月7日	常陸宮総裁殿下に新年ご挨拶
6月7日	本会監事会	1月7日	新年賀詞交歓会（蚕糸会館）
6月13日	蚕糸褒賞等選考委員会（蚕糸功労者表彰）	1月8日	純国産宝絹展（横浜高島屋～12日）
6月27日	定時理事会・評議員会	2月3日	本会会計期中監査（あずさ監査法人）～4日
7月7日	絹まつり（ジャパンシルクセンター）～10日、12/1～12/4	2月17日	平成25年度先進養蚕農家現地検討会（10t会）～18日福島県
7月19日	常陸宮妃殿下御誕生御祝記帳	2月27日	蚕糸・絹業提携システム全国推進協議会
7月23日	第1回蚕糸絹業提携確立技術・経営コンクール表彰式	3月20日	第2回蚕糸絹業提携確立技術・経営コンクール表彰式
8月20日	純国産宝絹展（札幌三越～25日）	3月22日	明治神宮「昭憲皇太后と養蚕パネル展とクラフト体験教室」に後援・展示実演
8月27日	蚕糸絹文化活性化推進事業現地調査 9/10（福島県）、8/1～8/2（山形）、7/8（山梨県）9/6（宮城県）等	3月24日	定時理事会・評議員会
10月10日	シルク・サミット2013 in 久米島（沖縄県）～11日		

## 2 役員・評議員名簿

総 裁 常陸宮正仁親王殿下

顧問 二瓶 博 顧問 吉國 隆 顧問 佐藤 豊

(平成26年6月1日現在)

役 職 名	氏 名	役 職 名	氏 名
会 頭	高 木 賢	監 事	氏 家 昇 一
副 会 頭 (常)	久 保 脩	監 事	袖 山 裕 行
常 務 理 事 (常)	草 野 洋 一	評 議 員	黄 色 俊 一
常 務 理 事 (常)	安 藤 俊 幸	評 議 員	小 島 伸 一
理事 蚕業技術研究所長 (常)	新 保 博	評 議 員	嶋 田 透
理事 蚕糸科学研究所長 (常)	清 水 重 人	評 議 員	関 秀 一
理 事	岡 田 宣 世	評 議 員	高 村 育 也
理 事	小 林 迪 弘	評 議 員	道 明 三 保 子
理 事	林 良 博	評 議 員	古 澤 壽 治
理 事	牧 口 正 則	評 議 員	宮 坂 照 彦
理 事	三 浦 幹 彦	評 議 員	森 川 英 明

注) (常) …常勤 無印…非常勤 理事 11名 監事 2名 評議員 9名

### 3 役付理事・職員数

(平成26年6月1日現在)

区 分	理 事	事 務 職 員	研 究 職 員	計	嘱託(研究員等)
本 部	会 頭 副会頭 1(常) 常 務 2(常)	9	—	13	5
蚕糸科学研究所	所 長 1(常)	1	6	8	1
蚕業技術研究所	所 長 1(常)	2	14	17	3
合 計	6	12	20	38	9

「役付理事欄」 (常)…常勤 無印…非常勤